

川井地区



川井地区は、区の北部に位置し、帷子川流域の最も大きい地区で、区域の大半は市街化調整区域であり、自然的土地利用が多く、もともとの地形の改変程度は比較的小さな地区です。矢指市民の森、追分市民の森、ズーラシア、ゴルフ場など多くの緑に恵まれています。

人口は横ばいで、その年齢分布は旭区全体の分布とよく似ています。

■めざす地区の姿

顔と顔が見える明るいまちづくり

- (1) 豊かな自然環境をいかした健康づくりで笑顔が溢れるまち
- (2) 安全で安心して明るく、連帯感があるまち
- (3) 隣近所とのふれ合いや、地域交流が活発にみんなで協力し合うまち

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

■目標A ~参加しよう~

緑豊かな自然にふれるのと、健康づくりと介護予防を推進する

■具体的な取組

- 区域内の史跡や歴史を紹介する「川井地区歴史散歩」のマップを作成し、全戸へ配布、散策のツールを提供する。
- 川井地域ケアプラザと協働で認知症予防の体験講習を推進し、早期発見を図る。



連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

■目標B ~つながろう~

安全で安心して暮らせる町・連帯感のある町づくりを推進する

■具体的な取組

- 一人暮らし高齢者や障害のある人達を地域で支える見守り体制の仕組みを作る。
- 大規模地震発生時の要援護者に対し登録者リストを更新し、運用の仕組みを再生する。
- 車椅子での避難（受け入れ施設へ）を必要とする要援護者を個人から地域で支える取組を進める。
- 夜間のコンビニやたまり場へのパトロールを増やし見守りの強化を図る。



■目標C ～元気になろう～

太陽の下を歩くこと・走ることで元気カアッフ
地域交流も活発になる町づくりを進める

■具体的な取組

- 川井地域で生産される野菜類の直販ポイントをマップで紹介し気軽に散策出来る情報を提供する。
- 多世代で楽しむ健康づくり（レクリエーション大会、世代間グランドゴルフ、体力測定等の元気づくりステーション）を継続し、地域交流を進める。

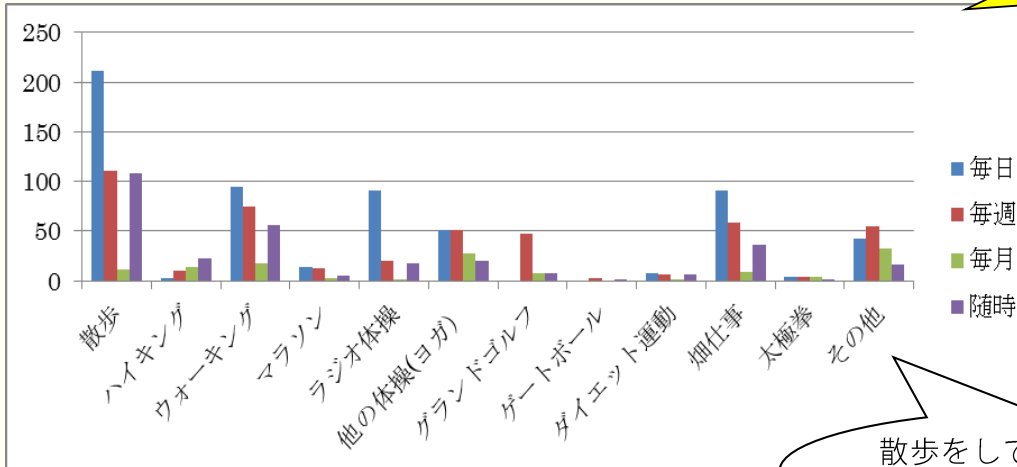


「健康で幸せな生活をおくるには！」アンケート結果(抜粋)

「健康で幸せな生活をおくるには！」のアンケートを実施しました！

健康でいきいきと生活するために継続的な健康づくりを行っていますか？

回答世帯数
1,611件!



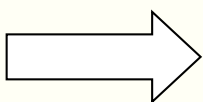
<BEST 5!>

- 1：散歩
- 2：ウォーキング
- 3：ラジオ体操
- 4：畑仕事
- 5：ヨガ

散歩をしている人がとても多いことがわかります。

地域で安心して生活を続けるために心配していることは？

防犯／健康／見守り／防災／道路／地域交流／マナー／子育て などのご意見があり、なかでも、地域交流（近隣住民とのつながり）への心配の声が多くありました。

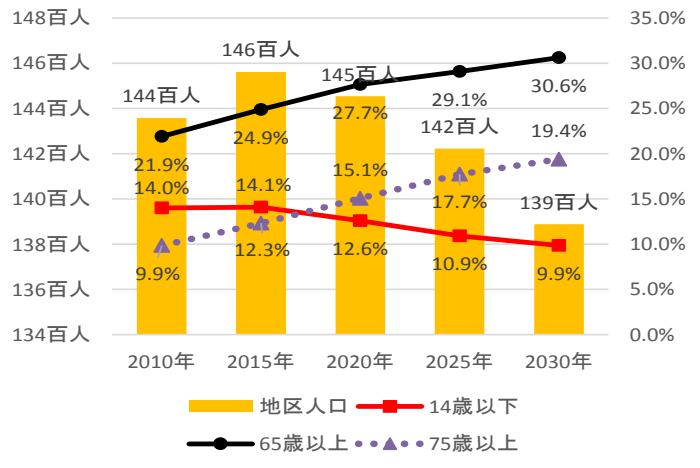
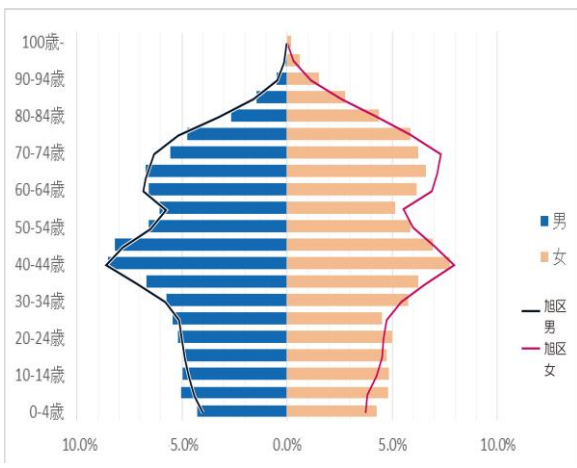


川井地区では、ウォーキング大会の実施やウォーキングマップの作成などを行っています。第3期でも継続して取組んでいくとともに、他の課題についても検討していきます。

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）とほぼ同様の構成となっているが、男性は団塊世代以上、女性は団塊世代を含む層の比率がやや低くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 200 人増加しています。高齢化率は 3% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 270 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.21 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 14500 人、2025 年で約 14200 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 27.7%、2025 年で約 29.1%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

○要援護者の見守り活動

地震災害等で家が倒壊し住むことが出来ない人を一時避難場所として、介護施設（9施設）を利用する事を施設側と連携し利用者登録をおこなった。また、避難訓練も実施した。

○世代間交流の推進

子どもから高齢者も楽しめるグランドゴルフ大会やレクレーション大会、演芸大会等のイベントを開催し世代を交えた交流を図った。また、幼児と母親の交流会（ぽっかぽか）も毎月実施している。

○地域交流の広報活動を推進

「川井地域催しマップ」や「ウォーキングマップ」を作成し配布。各地域の行事や史跡、野菜直売場所等を紹介する事で情報の共有と参加意識の高揚を図った。

○安全安心町づくりの推進

「川井地区防災マニュアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を作成し全戸へ配布。いっとき避難から防災拠点での運営等必要事項を纏めている。また、避難訓練等に活用されている。

○その他継続活動

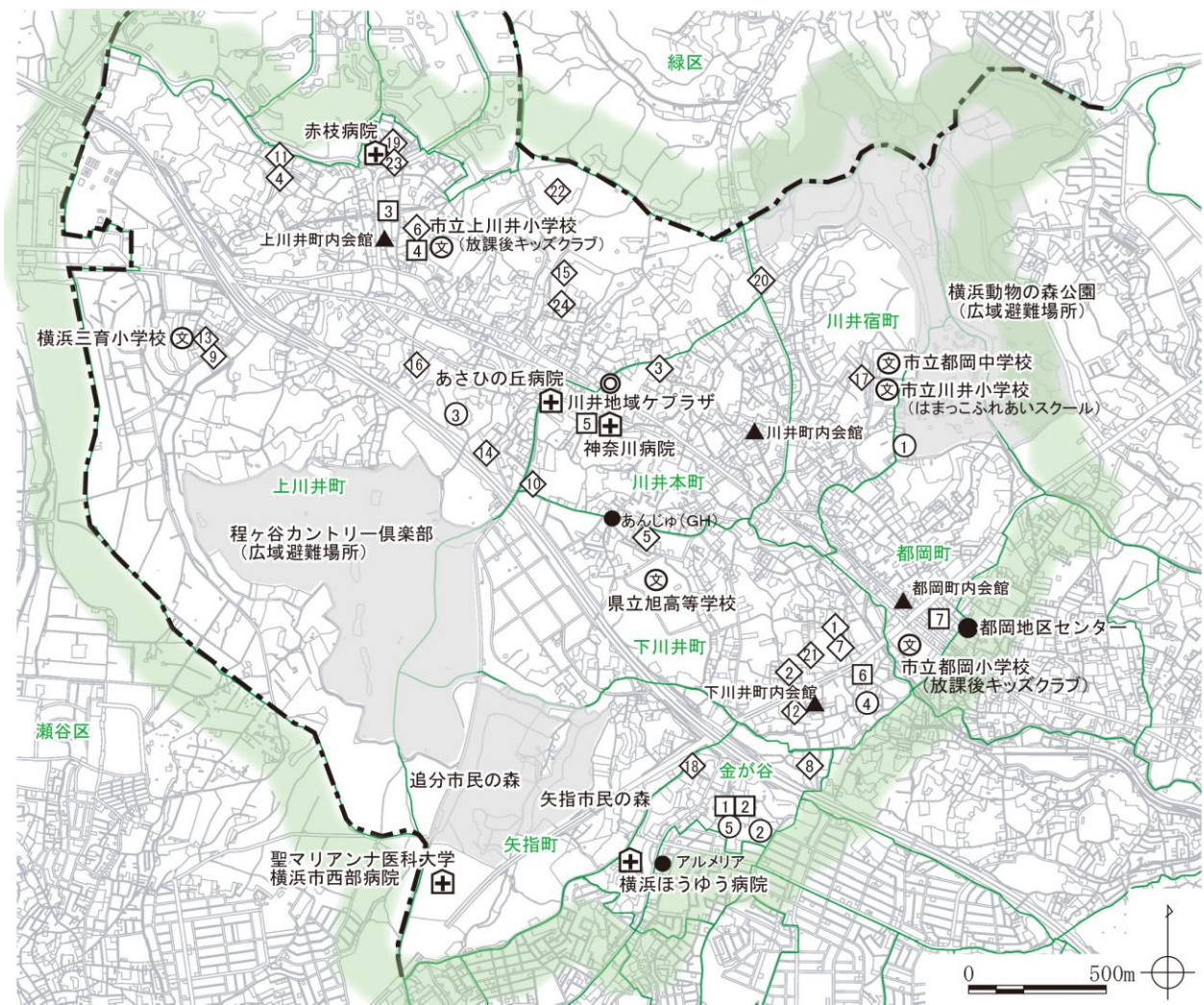
小、中学校の登下校の見守りと挨拶運動を推進。また、夏休みの「地球クリーン作戦」も実施した。

■地区の福祉課題

「健康で幸せな生活をおくるには！」のアンケートを地域全体に実施し何が課題かを纏めた。

- (1) 近隣住民との挨拶やふれ合いの機会が少ない、つながりのある町づくりが求められている。
- (2) 中高年層に対し元気なうちから認知症予防等の健康づくりが必要である。
- (3) 孤立している人、引きこもりがちの人達に交流の呼びかけや、居場所の提供が必要である。
- (4) 大規模地震発生時、要援護者の登録情報を再構築する必要がある。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

- 子ども**
- 認可保育所**
- ① 横浜市立川井宿保育園
 - ② ひまわり愛児園
- 幼稚園**
- ③ 上川井幼稚園
 - ④ 都岡幼稚園
- 児童養護施設**
- ⑤ ポート金が谷

- 障害者**
- 障害者施設**
- ① やすらぎの園
 - ② くるみ学園
 - ③ 虹のかけはし
 - ④ 第2虹のかけはし
 - ⑤ ヴィラあさひの丘
 - ⑥ いっぱい
- 障害児施設**
- ② くるみ学園
- 地域活動支援センター (地域作業所)**
- ⑦ ウイングス

- 高齢者**
- 小規模多機能型居宅介護**
- ① ひまわり
- 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)**
- ② 樹林の風
 - ③ サリューブルあさひ壱番館
 - ④ あかね
 - ⑤ つどい
 - ⑥ 青い空と緑の大地
 - ⑦ ゆうあい
 - ⑧ みんなの家 横浜金が谷
- ケアハウス**
- ⑨ シャローム桜山

- 高齢者**
- 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)**
- ⑩ 旭ホーム
 - ⑪ あだちホーム
 - ⑫ さくら苑
 - ⑬ シャローム横浜
 - ⑭ 弥生苑
 - ⑮ 水の郷
 - ⑯ サニーヒル横浜
 - ⑰ かわいいの家
- 介護老人保健施設**
- ⑱ 老健リハビリよこはま
 - ⑲ グリーンリーブズ赤枝
 - ⑳ シオンよこはま
 - ㉑ ほほえみの郷 横浜
 - ㉒ 希望の森
- 特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム)**
- ㉓ ミニハウス オレンジヒルズ
 - ㉔ アモーレ 水の郷

若葉台地区

若葉台地区は、区の北端に位置し、帷子川の源流域である丘陵地を大規模開発した集合住宅団地です。団地中央には商店街や公共施設があり、歩車分離道路や、緑に囲まれた計画的な街並みが形成されています。



■めざす地区の姿

孫子老のまち若葉台を目指して～現在から未来へ～

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

■目標A

向こう三軒両隣につながるコミュニケーション

■具体的な取組

○イベントの声掛けやあいさつなどにより、交流を深める

- ・地域の各種イベントに参加して顔見知りを増やす（自治会、棟委員、階段委員呼びかけ）
- ・（団地内各棟の）上下左右階の居住者と交流する
- ・若葉台ですれ違う人にあいさつする
- ・クリーンデーでの交流理解を深める
- ・近隣の人たちと、サークル活動を行う
- ・棟集会を活用した交流をする

○地域での孤立化を防止する

- ・孤立してしまう人を増やさない（高齢者、障がい者、ひきこもり）
- ・高齢者の人間関係づくりの促進
- ・既存の場の有効活用により、自助努力を支援する（友愛活動や民生委員などへの情報提供につなげる）
- ・回覧板の手渡し時にあいさつや情報交換をする

○情報の充実を図る

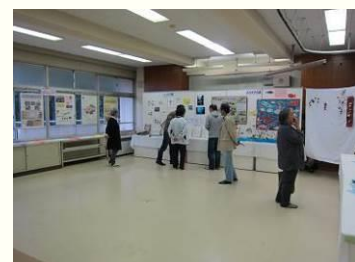
- ・自治会活動のPRを充実する（グループネットワーク促進、登録制度、有償活動など）
- ・（各棟の）階段委員が中心となり、回覧板の質を高める（重要な情報、お得情報、楽しい情報を定期的に行う）

○障がい児者への理解を深める

- ・地区社協がボランティアを募り、障がい児者に対する支援をしていく
- ・地域行事等で、既にあるグループの参加PRをしていく



夏まつり



障害者理解ふれあいフェスタ

■目標B

多世代交流の促進

■具体的な取組

○若い世代を対象とした取組を進める

- ・子育て支援を通じた多世代交流
- ・親子で選べる企画の実施

○子どもから高齢者が一緒に参加する取組の実施

- ・孫子老の日を充実させる（学校との連携、各自治会での展開）
- ・昔遊びなどを通じた多世代交流の実施
- ・多世代交流サロンの実施

○青少年から参画出来る行事を進める

- ・気軽に準備から参加できる青少年向けの行事の実施
- ・学校との交流を通して中高生に参加協力してもらう

○地域行事の継続及びそこへの参加の働きかけ

- ・多世代交流を意識した取組
- ・今ある取組や行事をPRし、参加者を増やす
- ・行事やイベントを多世代交流を意識した取組にする



多世代交流
みんなあつまれ



孫子老の日

■目標C

居場所づくり

■具体的な取組

○誰もが気軽に集える場所を作る

- ・自治会集会所を使う
- ・公社に施設提供の要請を行なう
- ・公園の有効活用を進める
- ・多世代が日常的に交流できる居場所を作る
- ・少人数でも集まって話ができる場所を提供する

○高齢者や障がい者が外出できる場所を作る

- ・自治会と老人会の協力体制の充実を図る
- ・老人会の加入者を増やす
- ・高齢者や障害者を対象とした昼食会等を実施する
- ・健康チェック、介護予防につながる担い手を増やす
- ・サークル活動の充実

○サロン活動を充実させる

- ・既存のサロンの活動団体が、更なる活動内容の充実を図り、地域への周知を広める



親と子のつどいの広場
「そらまめ」



自治会主催のサロン



プレイパーク

■目標D

ボランティアの育成～活動に参加しよう～

■具体的な取組

○ボランティア活動へのきっかけ作りをする

- ・自治会活動への参加を推進する
- ・経験者の力を発揮できる場を創出する
- ・幅広い年代の区民（住民）が参加可能となる仕組み作りをする
- ・簡単にできるボランティア活動を創出する
- ・ボランティアへのアフターフォローをする



孫子老の日

○児童生徒への働きかけをする

- ・学校教育の一環として、ボランティア活動に参加する仕組みを作る
- ・小学校5、6年生はジュニアボランティア活動、中高生は福祉委員になってもらう

○ボランティア情報の周知と共有をする

- ・ボランティア情報の発信と活動の見える化をする
- ・若葉台全体でボランティア登録などをして、各組織の行事ごとのボランティアを獲得しやすくする



赤い羽根共同募金



チャリティーバザー

若葉台全体の行事！



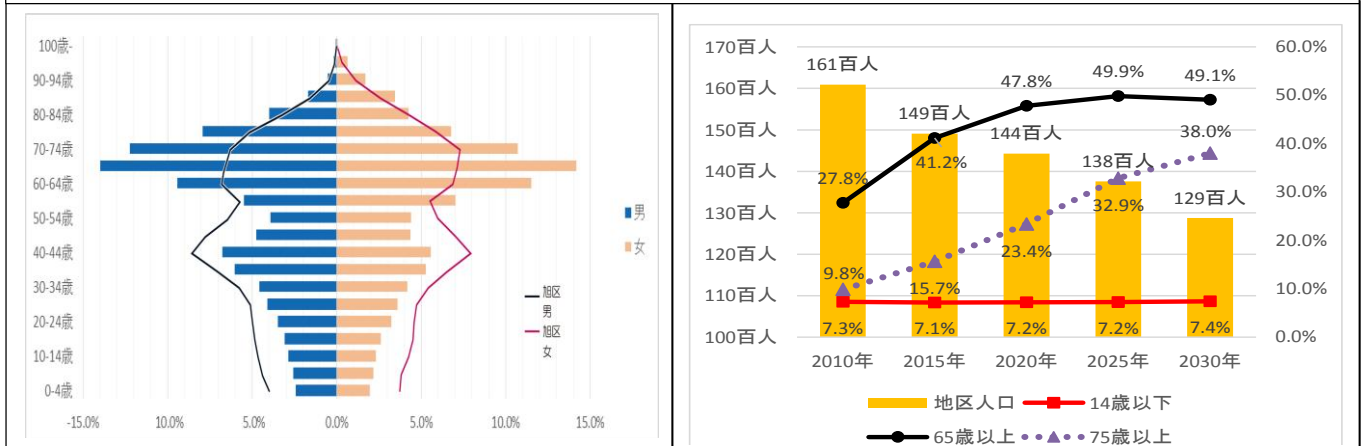
6月の高齢者交流会や7月の夏まつり、10月の大運動会や11月の文化祭など若葉台には多くの行事があり、多数の皆さんの参加があり世代を超えた交流の場がありますが、それらを継続していく事が大切と考え、地域全体で取組んでいます。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上の層の比率が男女とも高く、55歳未満の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約1200人減少しています。高齢化率は41.2%で、区内でも高い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの5年間でほぼ横ばいの状況です。また、世帯人員は2015年で2.22人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約14400人、2025年で約13800人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約47.8%、2025年で約49.9%となり、ピークをむかえると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

5年間で取組んだこと

○地域ニーズとしての「向こう三軒両隣」

- ・毎年3月に行われる高齢者等見守り事業等報告会は、各自治会の情報を共有出来る機会として引き続き開催し、安心安全のまちづくりのキーワードとしていく
- ・地域力を上げるために多くの地域の方々が知恵を出し合い、先駆的な取組を“若葉台”として進めていく

○分科会に、連合会長、防災担当等も参加してもらい、協力・連携の強化を図った

○情報収集シートの検討、第3稿まで作成

○わかばネット、NPO若葉台による情報交換会を開催

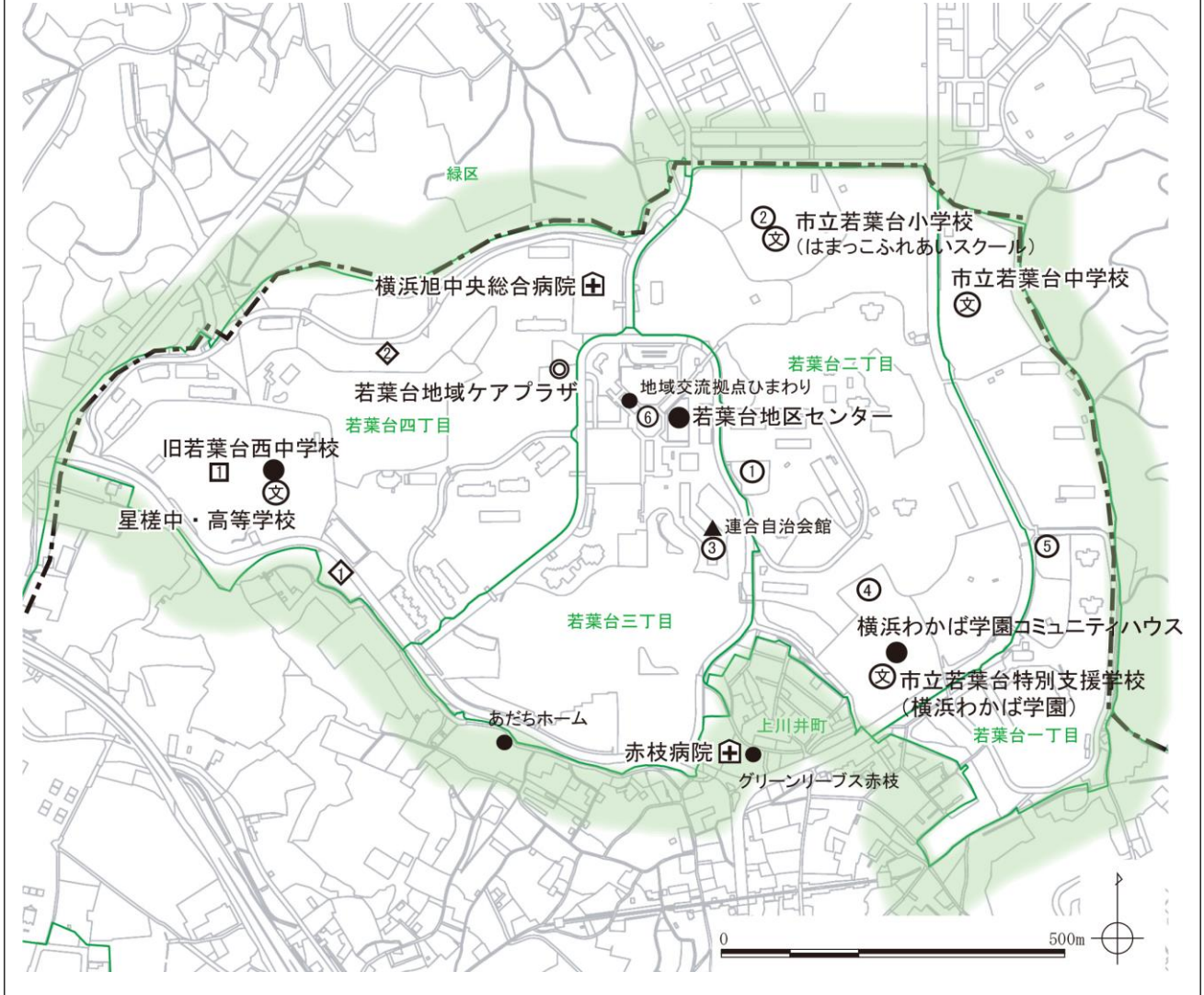
○3分科会は、専門化して検討するという意味ではよいのだが、参加者が分散し、少数化するため、議論が十分機能せず方向性が打ち出せない面もあった

- ・現行の分科会方式に限界があった為、課題をもう少し絞って検討していき、地域全体を俯瞰しながら検討出来る体制作りをしていく
- ・定期的に話し合いをもち、課題解決に向けて継続的な情報共有をしていく

■地区の福祉課題

- ・向こう三軒両隣の継続的推進
- ・超高齢化になり、介護予備軍が元気にいてもらう必要がある
- ・様々な情報がまちの中央に集中してしまっている
- ・老人会などの各団体に新たに入ってくる人が少ない
- ・若い世代の意見をくみ上げ、参加してもらう仕組みが必要
- ・中高生など学生がまちの活動に参加する機会が少ない
- ・ボランティア活動への協力者の育成

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

認可保育所

- ① 横浜市立若葉台保育園
- ② わかばの森保育園

放課後児童クラブ

- ③ 若葉台中央学童保育所

幼稚園

- ④ プレスクール若葉幼稚園
- ⑤ 若葉台第一幼稚園

親と子のつどいの広場

- ⑥ そらまめ

子ども

障害者

地域活動支援センター（地域作業所）

- ① 若葉台ぶんげいざ

高齢者

特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）

- ① トレクオーレ横浜 若葉台
- ② ヴィンテージ・ヴィラ横浜

笹野台地区

笹野台地区は旭区の西部に位置し、西側は瀬谷区に隣接し、最寄り駅は三ツ境駅です。昭和30年ごろから開発が始まった新興住宅地で、集合住宅は比較的少なく、戸建て住宅が中心の地区です。

この5年間に人口は約400人減少し、区全体に比べても高齢化が進んでいます。



■めざす地区の姿

自治会単位で、近隣の住人のことをお互いによく知り、助けあって「住みよい街」「明るい街」「安心して暮らせる街」となれるよう努めます。

■3期計画の主なポイント

自治会長を「笹野台地区ささえあい連絡会」の幹部役員に位置づけ、地域の諸行事の推進役になって頂き、自治会と地区社会福祉協議会を中心に地域全体で取り組みます。

■目標A

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

ボランティア不足への対応、発掘と育成

■具体的な取組

- 各自治会内で「口（くち）コミ紹介制度」を推進する。
- 「ホームページ」や「ささのだいニュース」にボランティア情報を掲載する。
- 「ボランティアの有償化」について検討する。

【自治会・地区社協】



《ちょっとしたお手伝い》



《お出かけ支援》

■目標B

小中高生の地区行事への参加を活性化させる

■具体的な取組

- 学校との協働により参加人員を増やす。学校でボランティア募集活動を行う。
- 各家庭への働きかけ。自治会イベントを通じて地域活動への参加を促す。
- 防災訓練、清掃活動（北公園・緑地など）への参加を募集する。

【自治会・地区社協・子ども会・青少年指導員・スポーツ推進委員】

《盆踊り大会》



《どんど焼き》



《みかん狩り》



《連合体育祭》

■目標C

住民相互の見守りシステムの構築(高齢者を含む)

■具体的な取組

- 近隣の人々をよく知る。種々のイベントで皆さんとよく話せる関係を作る。
- 「この人のことは誰に聞けばわかるか？」支えあいマップを構築する。
- 各組・班の高齢者を隣人が見守る。

【民生委員・児童委員・自治会・老人クラブ】



《福祉講演会》

■目標D

老人クラブの活性化

■具体的な取組

- 単位老人クラブごとの目標値を決めて加入率を向上させる。
- 各クラブで活動内容を充実させ、魅力あるクラブとして脱皮する。

【老人クラブ・自治会】



《老人クラブ✿ウォーキング》

■目標E

青壮年の交流の場を創設する

■具体的な取組

- 参加しやすいプログラムを創り出す。
- 自治会・社協主催の諸行事（従来型）に多数の参加を募る。

【スポーツ推進委員・青少年指導員】



《成人女子バレーボール大会》 《グランドゴルフ大会》

《卓球大会》

■目標F

女性の交流の場の活性化(ケアフラザとの共催事業)を図る

■具体的な取組

- 新人の参加を図り、輪をもっと広げていく。
- 魅力あるプログラムを考える。
- 各自治会館での出前講座を行う。

【自治会・地区社協】



《第3月曜クラブ》



《サロン『お茶べり会』》

■目標G

高齢者の交流の場の拡充

■具体的な取組

- ケアプラザ・笹野台会館から遠い人のために、各自治会館で出前講座をしっかりと行う（ケアプラザとの協働でサロン活動・ミニ講座など）。
- 引きこもり高齢者を誘い出すよう努力する。
- 対象者のニーズ（講座内容・時間帯・金額など）を把握するため、アンケートを実施する。
【自治会・地区社協・老人クラブ】

ほっとサロン
だんらん

サロン
ひとやすみ

《出張サロン》

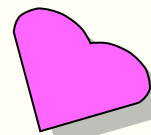
■目標H

障がい者の把握および対応への準備

■具体的な取組

- 情報の把握につき検討する。
- 障がい者へ理解を深めるために研修・講座を実施し、対応への勉強をする。
【地区社協・民生委員・児童委員】

地域のやさしい
見守り

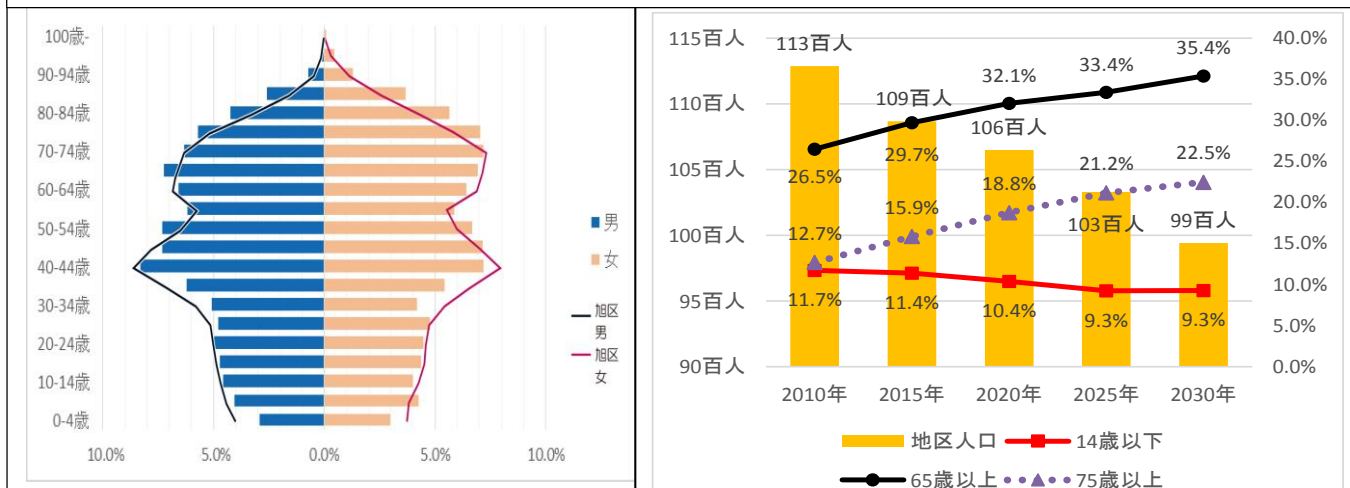


**組織に縛られず
【地域が一体となって活動目標を推進します！！！！】**

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）と近い構成比率となっているが、65歳以上の層の比率は区平均より高くなっています。その一方で、30歳代の層の比率が区平均よりも低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約400人減少しています。高齢化率は約3.2%増加し、旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね4900戸前後で推移しています。また、世帯人員は2015年で2.24人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10600人、2025年で約10300人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約32.1%、2025年で約33.4%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

年間約9回の地区社協常任理事会を開催し、活動内容等の情報共有を行いながら、連合自治会と協力して活動を行うことができたため、目標に掲げた取組については概ね計画どおりに進み、広報活動を通して活動をPRするなど、活動を拡大してきた。

一方、活動の担い手であるボランティアが高齢になってきており、活動を続けることが困難になってきている。活動を維持、拡大していくためにも新たな担い手の確保が必要である。

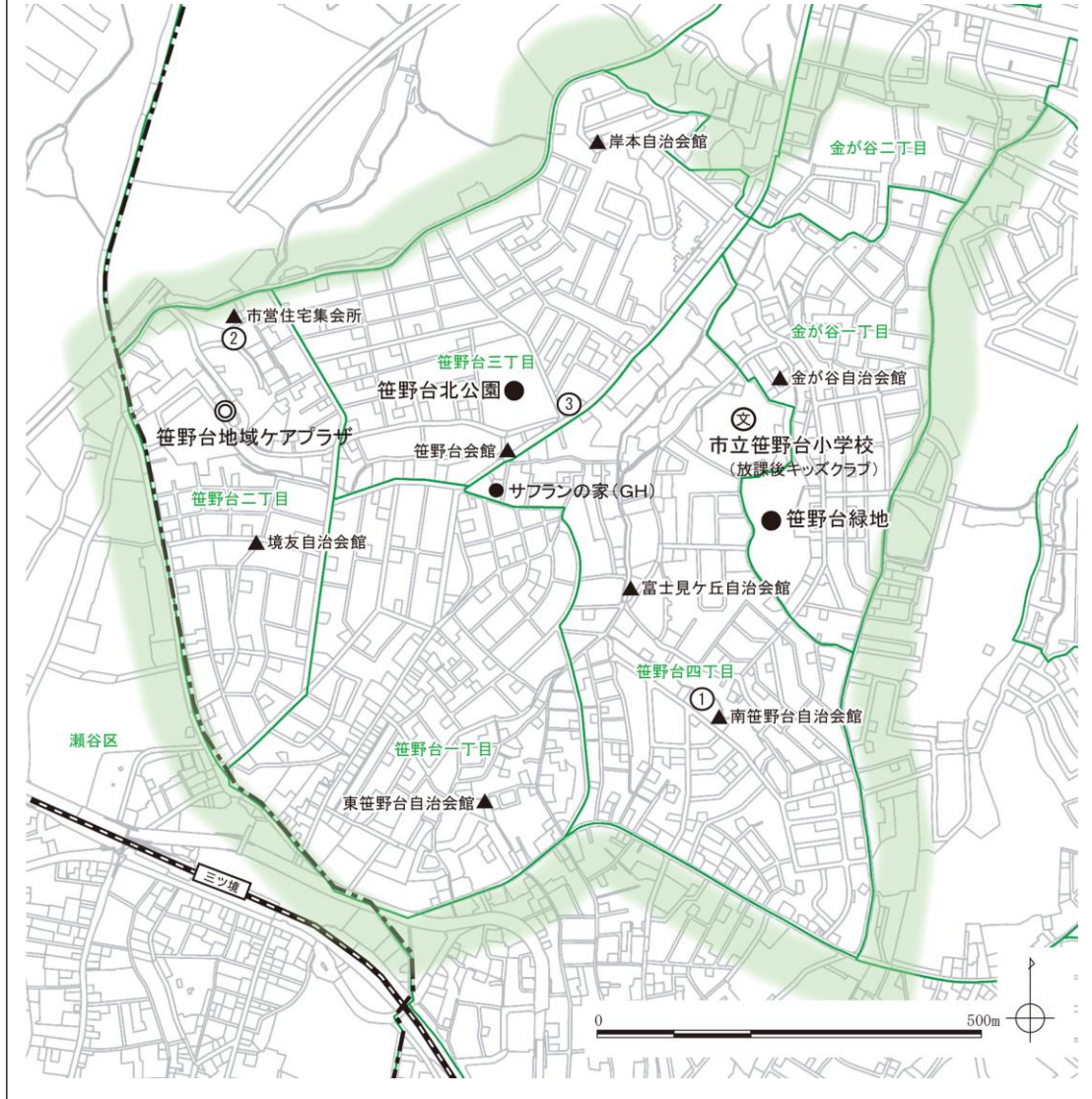
※取組の一部

- 昼食会会場の多点展開・・・お楽しみ会付きの昼食会を1か所で月1回実施。
- 広報活動の充実、強化・・・ホームページを開設し、地域行事や防災・防犯情報等を掲載。広く情報発信できるようになった。
- 子育てサロンの充実・・・毎月2回の実施、親のための喫茶コーナーを併設。
- サロン「お茶べり会」の創設・・・毎月第1金曜日に実施。
- 第3月曜クラブの創設・・・毎月第3月曜日に実施。
- 外出困難者への送迎対応・・・PR活動の結果による利用者の増加（26年度実績：918回）。

■地区の福祉課題

- ボランティアの高齢化および後継者不足。
- 買い物難民の支援が必要。
- 各種取組への参加が固定化されてきているため、参加者を増やす工夫が必要。
- 青少年事業においては中高生の参加を促す必要がある。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① キッズビレッジつくし保育園

横浜保育室

- ② たんぽぽ共同保育園

放課後児童クラブ

- ③ 笹野台げんきキッズ

希望が丘地区

希望が丘地区は、東西にのびる、一連の丘陵地に開けた住宅地で、南部は南斜面、北部は北斜面となっています。駅周辺から放射線状に道路が整備され、駅周辺に商店街が形成され集合住宅が多く、さちが丘方面及び三ツ境方面は戸建て住宅が整備されています。



■めざす地区の姿

地域の支えあいを育む 活発な交流があるまち

■目標A

運動する区計画の柱 3 地域の取組で元気カアッ7

あいさつの街をPRする(オアシス運動の推進)

■具体的な取組

- 掲示板の活用やパトロールなどでのPRを積極的に進め、オアシス運動や地域行事の周知を行い、参加者を増やす。
- オアシス運動を通じて、日頃からの見守りの目を増やしていく。



登校の見守り活動



オアシス運動の看板



オアシス運動の掲示版

■目標B

運動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

地域の集まりで知り合いを増やす

■具体的な取組

- 子どもや保護者が、地域行事に関心を持ってもらえるような工夫を取り入れて企画する。
- 地域行事や防災訓練等により多くの人に参加してもらい、交流を促進させる。
- 単位自治会で進められた良い取組を、他の自治会でも取り入れるなど、連合全体に広げていく。



運動会



防災訓練



子どもたちが太鼓をたたく夏祭り

■目標C

学校を通して交流を行う

■具体的な取組

- 保護者を含め、小学生や中学生の地域行事等への参加を継続し、ふるさと意識を高める。
- 様々な地域行事等に中学校にも関わりをもってもらい、ジュニアボランティア OB や OG など中学生のボランティア活動を推進する。
- 近隣高校と連携を図り、地域行事に参加してもらう。
- 地域行事の話し合いや活動に小中学生にも参加してもらう。



高齢者交流会でのジュニアボランティア



夏祭りのお手伝いをする小学生



K・K ネットのお手伝いをする中学生

■目標D

支えあいの輪を地域で広げる

■具体的な取組

- 高齢者や障害児者など支援が必要な人を見守る協力者や支援者の発掘（アンケートの実施等）および育成（交流会の開催等）を行う。
- K・K ネットや地域行事を通じて、多世代交流や障害児者支援を進める。
- 防災訓練に保育園や障害者施設など、様々な福祉施設に参加してもらい、当事者理解と地域との関係づくりを進める。



K・K ネット



松の会



さくら会

地区の活動情報

【K・K ネット】

「中学まで子どもは地域で育つ。多くの大人で育ちを見守ろう」という思いから、希望が丘南連合自治会と共同して、地域の子育てを応援しています。地域の公園で外遊びをしたり、子育てサロンやお話会季節の行事を実施したり、時には中学生のボランティアにもお手伝いしてもらっています。

【松の会】

ひとり暮らし高齢者の方を対象とした昼食会を、毎月第4金曜日に希望が丘地区センターで12時30分から行っています。

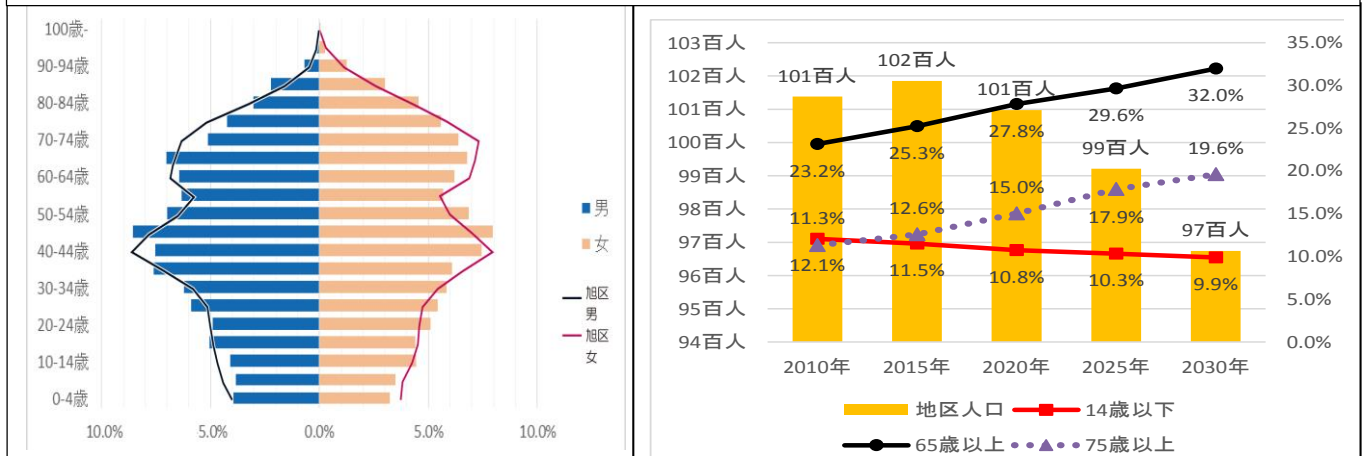
【さくら会】

脳血管疾患等の中途障害の方を対象に機能訓練や交流を、毎月第1・3火曜日13時30分から希望が丘地区センターで行っています。

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）と近い構成比率となっています。その中でも 45 歳から 49 歳の層の比率が最も高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間ではほぼ横ばいで、高齢化率は約 2% 増加しましたが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 120 戸増加しています。また世帯人員は 2015 年で 2.09 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 10,100 人、2025 年で約 9,900 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 27.8%、2025 年で約 29.6%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

○「オアシス運動」の推進

- ・ポスター掲示や、パトロール等での声かけで運動はかなり浸透してきているが、なお努力の継続が必要。

○地域の集まりで知り合いを増やす

- ・「さくら会」「松の会」「K・Kネット」が地域と連携をとり、活動を活性化させている。

○学校を通じて交流を行う

- ・「高齢者を祝う集い」「環境美化運動」へ地元の小・中・高校生が参加し、関わりが深まった。

○支え合いの輪を地域に広げる活動

- ・「災害時要援護者アンケートによる、要援護者リスト、支援者リストの作成と、連合、各自治会・町内会、民生委員の間での情報共有している。

■地区の福祉課題

- ・障害児者への対応の推進
障害児者の施設と地域との交流の活発化
- ・地域リハビリ教室の参加者減少、担い手の人数の方が多くなっている
- ・高齢者の取組での参加者の減少
- ・外出手段がなく、地域の活動に出てこられなくなっている
- ・小学生のジュニアボランティア後の活動として、中学生のボランティア活動の推進（活動場所の開拓や仕組みの構築等）
- ・中学校や近隣高校との関係づくり
- ・保護者世代のボランティア参加やボランティアに関する意識が低い。
- ・生活の中で、ちょっとした支援を必要としている高齢者や障害児者が、地域には多くいる
- ・住民の孤立化防止の取組の推進
孤独死が起きないように、具体的な見守り方法の検討が必要。地域の見守りや安否確認に限界がある
- ・福祉の担い手の高齢化、活動者の固定化

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 中希望ヶ丘保育園
- ② 夢のつぼみ保育園

認定こども園

- ③ やつはしキッズ

横浜保育室

- ④ プラス保育園

放課後児童クラブ

- ⑤ ハッ橋学園 やつはし学童クラブ
- ⑥ ハッ橋学園 やつはし第2学童クラブ
- ⑦ 第2ちびっこハウス

障害者

障害者施設

- ① 夏の空
- ② ミツ境どんぐりヒルズ
- 地域活動支援センター(地域作業所)
- ③ 旭カンパニー

高齢者

小規模多機能型居宅介護

- ① プルメリア
- 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
- ② ずうずう

希望が丘東地区



希望が丘東地区は、希望が丘駅北側一帯の、総じて南斜面の丘陵地を中心とした地区ですが、何本かの谷戸筋が入り、地形の構成は複雑です。戸建て住宅を中心に、集合住宅が散在しています。

人口は、この5年で1.6%増で、年齢構成としては、区平均に比べファミリー層の占める割合が多い地区です。

■めざす地区の姿

「みんなで築く生き生き活力ある街」

子どもから高齢者まで、いつでもみんなが「助けあい」「支えあい」「見守り」「ふれあい」、いつまでも安全に、安心して暮らせる地域

■目標A

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

支援が必要な人に対する共助の推進

■具体的な取組

○6つの自治会・町内会館を会場に高齢者向けサロンの開催

地区社会福祉協議会、老人会の友愛活動員、民生委員児童委員をスタッフとして、コーヒー隊、マジック、ハワイアンバンドなどボランティアの協力を得て、6つの自治会・町内会館を会場に茶菓子、コーヒー等を用意し、地域の高齢者に憩いとおしゃべりの場を提供します。



○子育て世帯を対象とした親子サロン、赤ちゃん教室、リトミック、幼児向け救急救命講座の開催

民生委員を中心としたボランティアが、赤ちゃん教室を春ノ木会館、中尾町会館で月1回、親子サロンを今宿地域ケアプラザで月1回実施します。

地区社協を中心に、リトミックを今宿地域ケアプラザで、春4回、秋4回実施します。

今宿地域ケアプラザ・地区社会福祉協議会共催で幼児向け救急救命講座を年1回実施します。



○一人暮らし高齢者・高齢者世帯を対象とした生活支援ボランティアの立ち上げ

地区社会福祉協議会を中心に一人暮らしの高齢者等を支援（主に掃除、買い物、庭木の剪定、簡単な大工仕事、電球・蛍光灯交換などの生活支援）するボランティアを立ち上げ、生活支援を実施します。

○障がい者への理解と支援ボランティアの募集

地区社会福祉協議会を中心に障がい者への理解を深めるための研修や障がい者とその家族等を支援するボランティア募集の準備を進めます。

■目標B

日頃から顔の見える関係作り

■具体的な取組

○地域住民みんなが参加する夏祭りの実施

連合自治会を中心として、中学生のブラスバンド、有志による太鼓の演奏、子供みこし、阿波踊り、盆踊りや、各種団体等が運営する模擬店など地域交流を推進するため、夏祭りを実施します。



○下校時一斉パトロール、登下校時見守り活動

連合自治会を中心に民生委員児童委員、子ども会、老人会の協力を得て、小学校の下校時パトロールを年4回実施します。

老人会、自治会・町内会ごとに適宜見守り活動を実施します。



○認知症講座等の講演会や研修会の実施

地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員会、消費生活推進員会等がそれぞれ地域見守りのための講演会や研修会を実施します。

■目標C

平時から地域で助け合う関係作り

■具体的な取組

○災害時要援護者調査の実施

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会の3者でアンケートを作成し、自治会・町内会でアンケート調査を実施します。

要援護者に対し安全カードに記入した用紙を入れる透明スクリュウボトル、LED 懐中電灯等を配布します。

○自治会・町内会ごとの防災組織作りの推進

平成25年度に作成した「減災対策および災害時要援護者支援の手引き」を活用して、それぞれの自治会・町内会にあった組織づくりをサポートします。

○防災訓練時に要援護者に対する安否確認の実施

災害時を想定して実施する防災拠点の防災訓練時に、要援護者に対し安否確認を行います。

○防災訓練の実施

連合自治会主催で、災害時に地域が支えあうための防災訓練を行います。

■目標D

小中学生が地域行事に参加、福祉体験できる機会の拡大

■具体的な取組

○中学生ボランティアの地域清掃、夏祭り、防災拠点防災訓練、ふれあい広場等への参加

連合自治会が企画、運営をする地域清掃は、厚木街道など地区内の主な街道を中学生ボランティア、連合自治会、各種団体のメンバーが協力して清掃活動を行います。

生活道路は自治会・町内会ごとに地域住民が小学生と一緒に清掃活動を行います。

夏祭り、ふれあい広場において、中学生ボランティアを募集し、多くの中学生が参加することで地域交流を深めます。

防災拠点での防災訓練時に中学生ボランティアが参加することで、地区内での防災施設に対する理解を深めます。



○小学生によるジュニアボランティア活動への支援

小学校6年生によるジュニアボランティアが、

- ・老人ホーム等を訪問、高齢者昼食会でボランティア活動を体験します。
- ・サマーフェスタやふれあい広場では、焼きそば、たこ焼き、チョコバナナなどを販売協力します。
- ・赤い羽根共同募金に参加します。

以上の取組を民生委員児童委員の協力により実施します。



■目標E

地域の取組みを支える仕組みづくり

■具体的な取組

○世代間交流を目的としたふれあい広場の開催

地区社会福祉協議会を中心に世代間交流を目的として、自治会・町内会、連合自治会、老人会、スポーツ推進委員、青少年指導員、保健活動推進員、消費生活推進員等の協力を得て福祉バザー、模擬店、健康チェック、餅つきや伝承遊び等を行う、ふれあい広場を東希望が丘小学校で11月末に実施します。



希望が丘駅前の食品スーパーの入口、出口に高齢者が休憩できる長いすを3脚設置しました

「駅前のスーパーでの買い物の後、ひと休みできる椅子が欲しい」という高齢者の声から「希望ヶ丘東地区高齢者をみんなで支えるまちづくり検討会」のメンバーが駅前スーパーに椅子を設置しました。

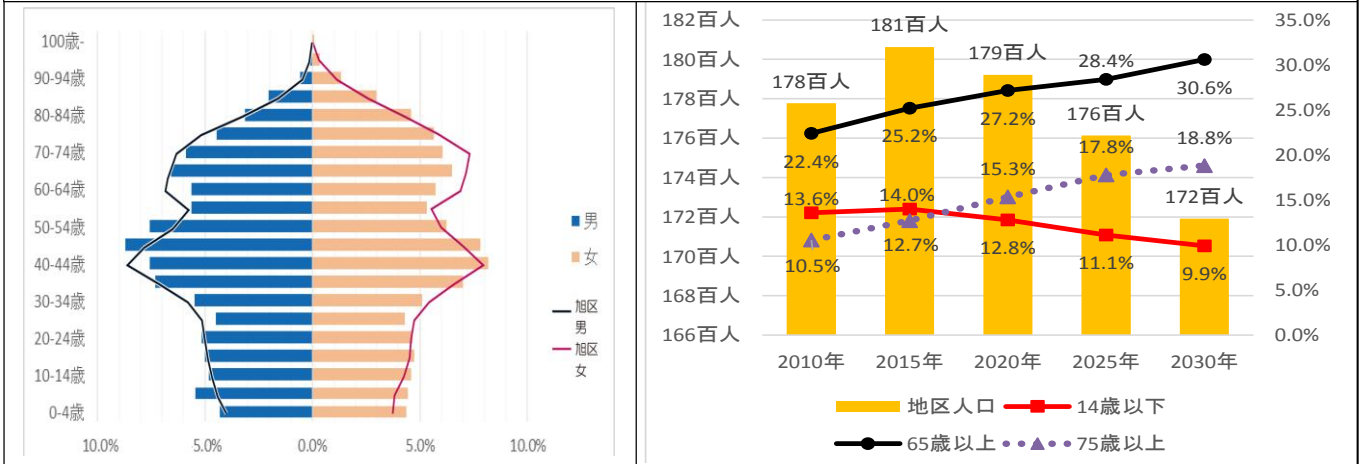
買い物が済んだ高齢者が買い物カートを椅子の横に置き、一息つくなど大変喜ばれています。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ団塊世代の層の比率は低く、男性は 45 歳から 54 歳、女性は 40 歳から 54 歳の層の比率が高くなっています。また、10 歳以下の層の比率も高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 300 人増加しています。高齢化率は約 2.8% 増加したが旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 170 戸増加しているが、世帯人員は 2.3 人/戸から 2.29 人/戸と、ほぼ変動がありませんでした。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 17900 人、2025 年で約 17600 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 27.2%、2025 年で約 28.4%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



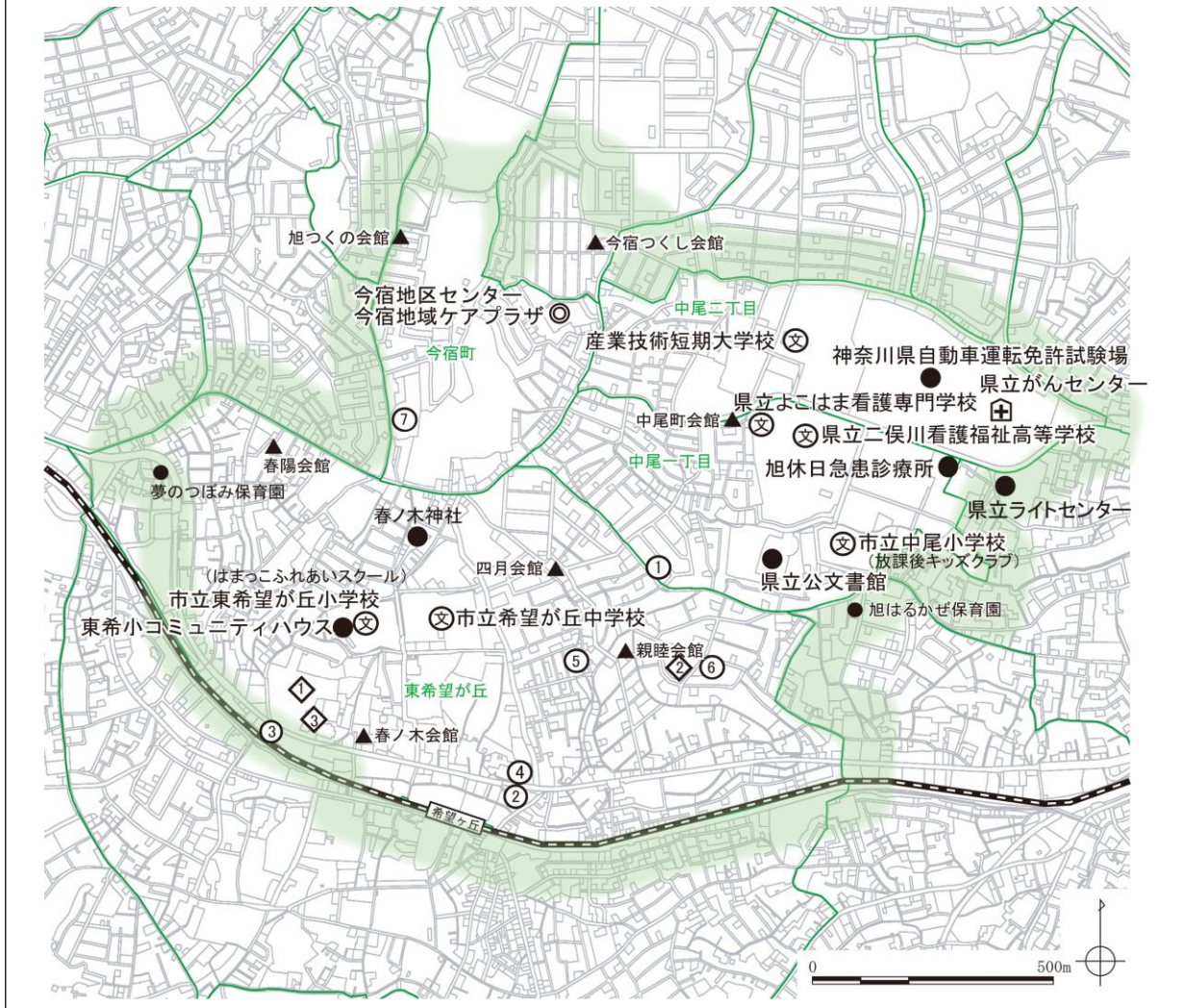
■2期計画の振り返り

- ・ 連合自治会、地区社会福祉協議会を中心に各種団体、自治会・町内会の協力を得て多くの事業を通じて地域交流福祉活動は十分に行えていると感じている。また取組事業への参加者は年々増加傾向にある。
- ・ 未加入町内会「0」への課題は、未加入町内会へアプローチするものの、役員のなり手がいないとの理由で加入に前向きな回答を得られていない。
- ・ 現在のところ各種事業への取組は問題なく出来ているが、メンバーの増員、世代交代は進んでいない。
- ・ 災害時要援護ささえあい事業は8年目を向かえ順調に継続調査を進めており、民生委員を通じて新規の要援護希望者には自身が記入した安全カードを入れる透明スクリーンボトルと小型LED懐中電灯を配布できている。
- ・ 連合自治会・地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会の3者で協議・作成した「減災対策及び災害時要援護者支援の手引き」を自治会・町内会に配布している。この手引きを参考に一部自治会では防災組織が出来ているが、ほとんどの自治会・町内会ではただいま検討中である。
- ・ 「ささえあい情報マップ」の改訂版は全戸に配布され多くの人々から「便利に利用している」との言葉をいただいている。

■地区の福祉課題

- ・ 高齢者世帯が増える中、近隣住民どうしがいつでも支えあい助け合える仕組みづくり
- ・ 高齢者から幼い子供まで見守りネットワークの地区内の全地域への推進
- ・ 認知症や障がい者等を抱えた家族への理解やサポートシステムの構築
- ・ 自治会・町内会活動、福祉活動に地域の人々が参加しやすい仕組みづくり
- ・ 地域住民の防災意識を向上させる仕組みづくりと自治会・町内会ごとの防災組織づくり
- ・ 地区内での各種活動に対する情報の共有化と情報が的確に伝わる仕組みづくり
- ・ 地区内で連合自治会に加入していない地域の自治会活動への参加推進

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認可保育所 ① 中尾保育園 ② ヨコハマ旭チャイルドステーション ③ つぼみ保育園 横浜保育室 ④ ザ・チャイルドクラブ希望ヶ丘 放課後児童クラブ ⑤ あすなる学童クラブ 幼稚園 ⑥ 希望ヶ丘幼稚園 ⑦ つくの幼稚園	高齢者	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム) ① 中銀ライフケア横浜希望ヶ丘 ② ライフコミュニケーション希望ヶ丘 ③ 中銀ケアホテル横浜希望ヶ丘
------------	--	------------	---

希望が丘南地区

希望が丘南地区は、区の最南端に位置し、地区内を数本の二俣川支流が東西に流れています。起伏に富んだ南北斜面を繰り返す丘陵地に住宅地が形成され、戸建て住宅地に集合住宅が点在しています。



■めざす地区の姿

「地域のひとのつながいを強くします」

～みんなで作るまち、みんなが参加するまちを目指します～

■目標A

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

防災対策等を通しての日頃から顔の見える関係づくり

■具体的な取組

- 地域の災害時の体制を整えることで、地域づくりを進める。
- 自治会等の防災訓練や各種行事に多くの人に参加してもらい、いざという時の関係づくりを進める。
- 今ある行事や取組（防災訓練等）を見直し、これまで参加しなかった人に関心をもってもらおう。



防災訓練



防災訓練



マイカプセル

■目標B

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

安心して自分らしい生活ができる地域

■具体的な取組

- OSOS ネットワークシステムの仕組みの周知や認知症サポーター養成などを行い、地域での見守りづくりを進める。
- 身近な場所（自治会館・公園・ケアプラザなど）で身体を動かすような取組を進める。
- 障がいのある方が地域で安心して暮らせる取組を進める。



認知症理解講座



元気づくりステーション



障がい児余暇支援事業

■目標C

幅広い活動からの担い手づくり

■具体的な取組

- 地域の担い手として、南希望が丘中学校や近隣高校との連携を進める。
- 趣味の活動から地域活動に参加する人を増やしていく。
- お父さんの集まりの場や地域とのつながりを増やし、男性の地域デビューを進める。



クリーン活動



ちょこっと応援団



男性の料理教室

■目標D

地域で子どもを見守り、子育てしやすいまちづくり

■具体的な取組

- すでにある取組（K・K ネット等）のPRを行い、参加につなげる。
- 公園で元気に安全で遊べるように公園での遊びを教えてくれる人（公園で遊ばせ隊（仮称））を増やす。
- 地域に住む子どもたちを対象に、地域で活動した記録（ボランティア手帳（仮称））を作り、子どもたちの活動を進める。



公園遊び（K・K ネット）



3世代ゲートボール大会



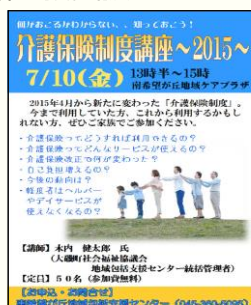
安全ボランティア

■目標E

地域の福祉拠点としての地域ケアプラザとの連携

■具体的な取組

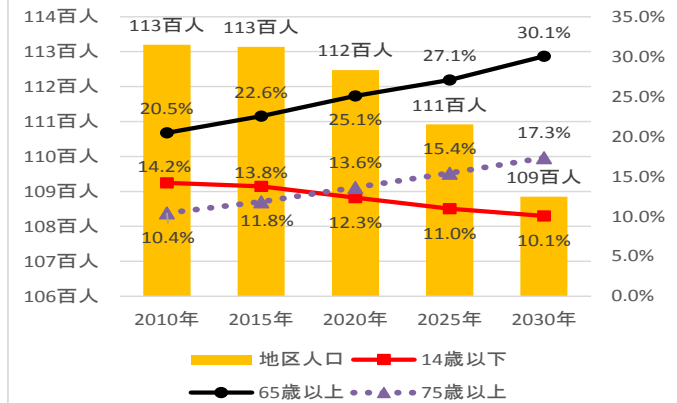
- 地域ケアプラザの活動紹介やリーフレットを配布するなど、地域ケアプラザが福祉に関する相談窓口であることを積極的に周知する。
- 自治会、各種団体等にて、地域包括支援センターの機能や介護保険等の制度や仕組みを周知する講座を開催する。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上の層の比率が低くなっています。一方、40歳から54歳の層の比率は高くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間でほぼ横ばいで、高齢化率は約2%増加しましたが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約100戸増加しています。また、世帯人員は2015年で2.36人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約11200人、2025年で約11100人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約25.1%、2025年で約27.1%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

- ・地区社協の主要行事である「バザー」を「ふくし祭り」に模様替えをして、バザーの他に、模擬店、知得コーナー等を追加し、幅広い世代間の多くの来場者を得て、楽しいふれあいの場となった。
- ・自治会、小中学校、各種団体の連携・協力のもと、「地域の人のつながりを強くします」という目標を達成できた。
- ・自転車教室は、2回で終了したが、特に新1年生については、学校の教科の一環として歩行訓練の時に、自転車走行時の運転注意事項を併せて行う事になった。

■地区の福祉課題

《地域参加・自治会》

- ・お祭りや運動会などの行事の参加者が同じ方ばかり。誘って参加してもらえるような取組が必要。

《災害・要援護者》

- ・一時避難場所など災害時の対応も知られていない。
- ・災害に備えた取組、特に高齢者や障がい者に対して取組が必要。
- ・自治会役員や老人クラブの友愛活動員などの協力が必要。重要な部分は民生委員が対応。
- ・個人情報保護の問題もあるが、ひとり暮らしなどわかる情報は発信して見守りが進むと良い。

《健康づくり》

- ・元気なうちから、健康づくり、仲間づくり、介護予防を楽しく行う。
- ・健康寿命をのばすため、健康に関することを取り入れ、介護予防を推進する。
- ・自治会加入者が多い地域でも、今は大丈夫だが、早いうちから仲間づくりを行う。

《社会的弱者》

- ・制度の谷間の方や制度を受けられない人へのサポートが必要。

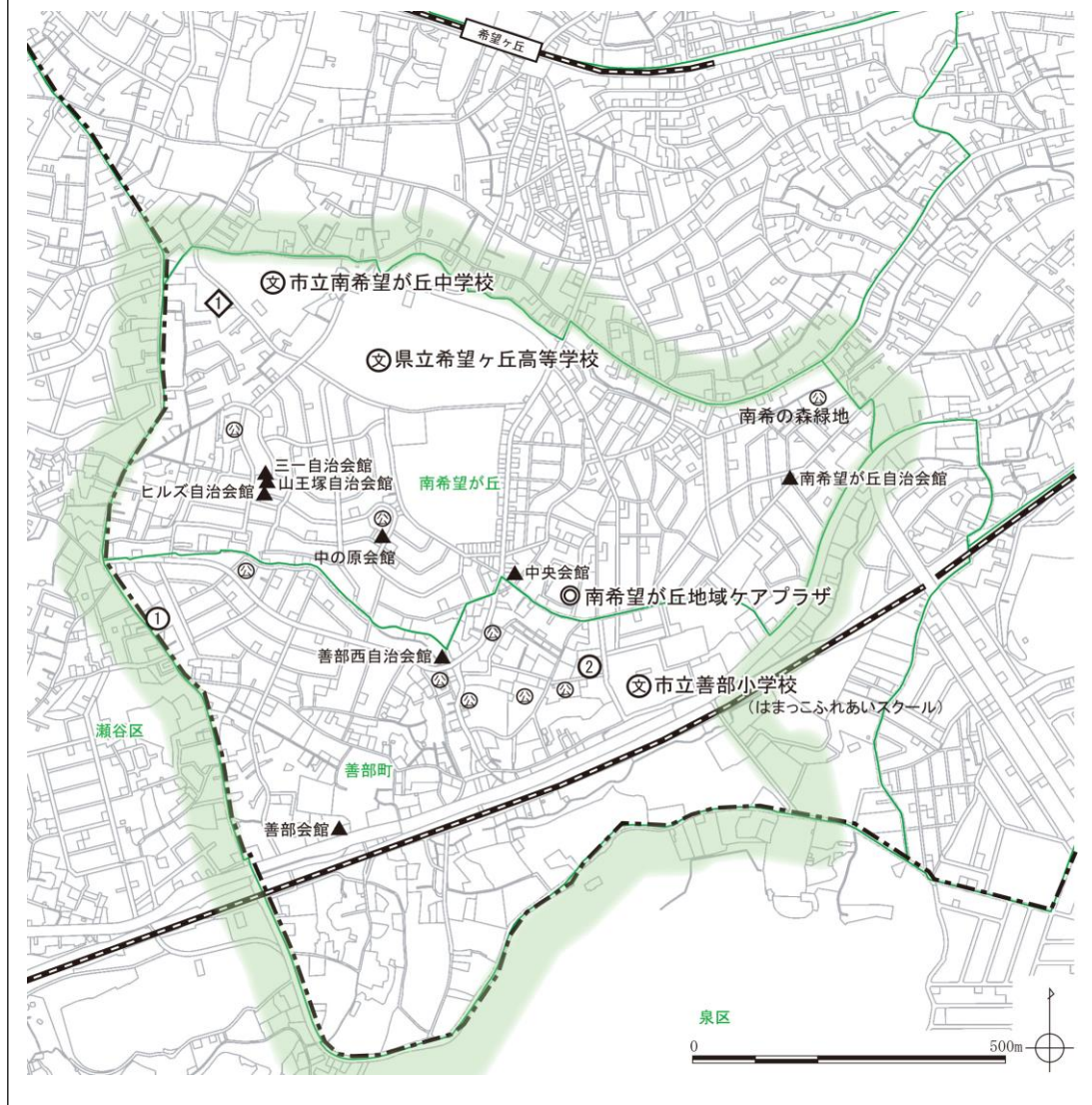
《子育て》

- ・子ども達を地域で育てていかなければ、支える側が不在になる。
- ・K・Kネットなど、すでにある取組が必要とする人に充分知られていない。
- ・公園で遊ぶ子どもが少ない。 ・この地域でいつまでも暮らしてもらえるような取組が必要。

《担い手・サポート体制》

- ・子ども会、PTAの役割が多く手がまわらない。役員活動の見直しも行っている。
- ・登下校での見守りもあり、地域や学校の行事など参加の機会もある。どう参加者を募るかが課題。
- ・退職後の男性が地域とつながっていない。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

認可保育所

子ども

- ① 善部保育園

放課後児童クラブ

- ② レインボークラブ

高齢者

特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)

- ① べすたライフ希望が丘

さちが丘地区



さちが丘地区は、区の南部に位置し、相鉄線の3駅に囲まれた区域で、二俣川が3筋に分かれるあたりの低地と丘陵地からなる地区です。幹線道路や鉄道が区域を横断しています。

人口は増加傾向にあり、年齢構成は55歳未満の比率が区の平均より大幅に高くなっています。団塊の世代の特出は見られません。

■めざす地区の姿

誰もが安心して豊かに暮らしていけるまち

- ・子ども、高齢者、障害者が交流し、地域が一体となった活動ができている
- ・行事を通して担い手が増えて、顔の見える関係ができている

■目標A

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ 3 地域の取組で元気力アップ

地域の担い手を増やそう

■具体的な取組

- 身近な公園や町内会館等を利用して、特技や能力を活かせる場をつくろう
【地区社協、老人会、自治会町内会】
- 行事の際に地域活動・地区社協をPRする機会（ブース設置、チラシ配布等）を設け、活動を知って参加してもらえるような仕組みをつくろう
【地区社協、自治会町内会】
- 他地区の成功事例を見学し、学習する場をつくろう
【地区社協】



子育てサロン「笑顔」



イベントで地区社協PR



地区社協での勉強会

■目標B

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

高齢者が生きがいを持とう

■具体的な取組

- 地区社協によるバックアップにより、お茶飲みサロンの充実を図ろう
【地区社協、老人会】
- 身近な公園や町内会館を有効活用して心や体が楽しくなる健康づくりプログラムができるようにしましょう
【保健活動推進員、老人会、地区社協、婦人会】



お茶のみサロン「元気」



小学校体育館で敬老祝賀会



連合大運動会

■目標C

地域で子育てを応援しよう

■具体的な取組

○子育てに悩む親が孤立しないように子育てサロンを継続・拡充しよう

【地区社協、保健活動推進員】

○さちが丘に住んだ子どもが地域に愛着と誇りを持てるような行事・活動をしよう

【自治会町内会、子ども会、地区社協】



子育てサロン「笑顔」



地域の防災訓練のひとコマ



連合盆踊り大会

■目標D

安心・安全なまちをつくろう

■具体的な取組

○弱者を救済する仕組みをつくろう

(災害時要援護者等への対応等) 【自治会町内会、民生委員・児童委員】

○お互いの声掛け等、隣近所の見守りを強化しよう 【自治会町内会、民生委員・児童委員】

○「安心カード」の有効活用 【自治会町内会、地区社協、民生委員・児童委員】



連合防災訓練の救助訓練



赤い羽根共同募金

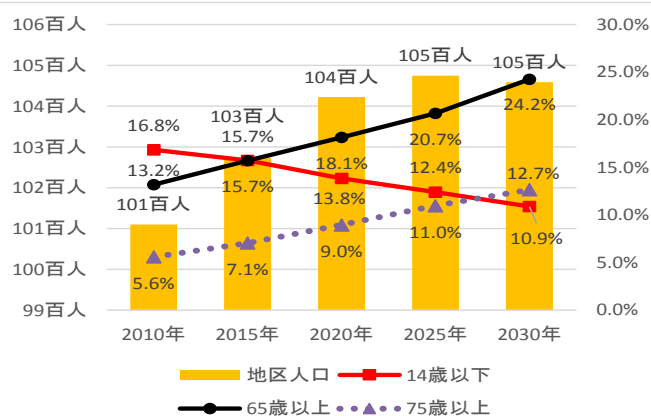
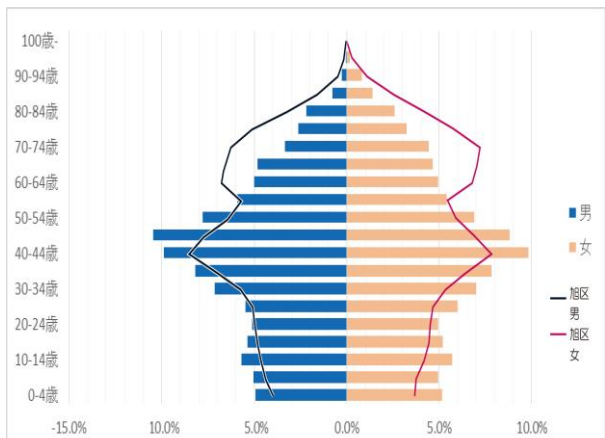


ふれあい福祉まつり

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 30 歳から 54 歳の生産年齢層の比率がかなり高くなっています。また、14 歳以下の層の占める比率も高くなっている一方、団塊世代の特出は全く見られません。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 200 人増加しています。高齢化率は 15.7% で旭区平均より 10% 以上低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 130 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.33 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 10400 人、2025 年で約 10500 人と増加しつづけると見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 18.1%、2025 年で約 20.7% になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

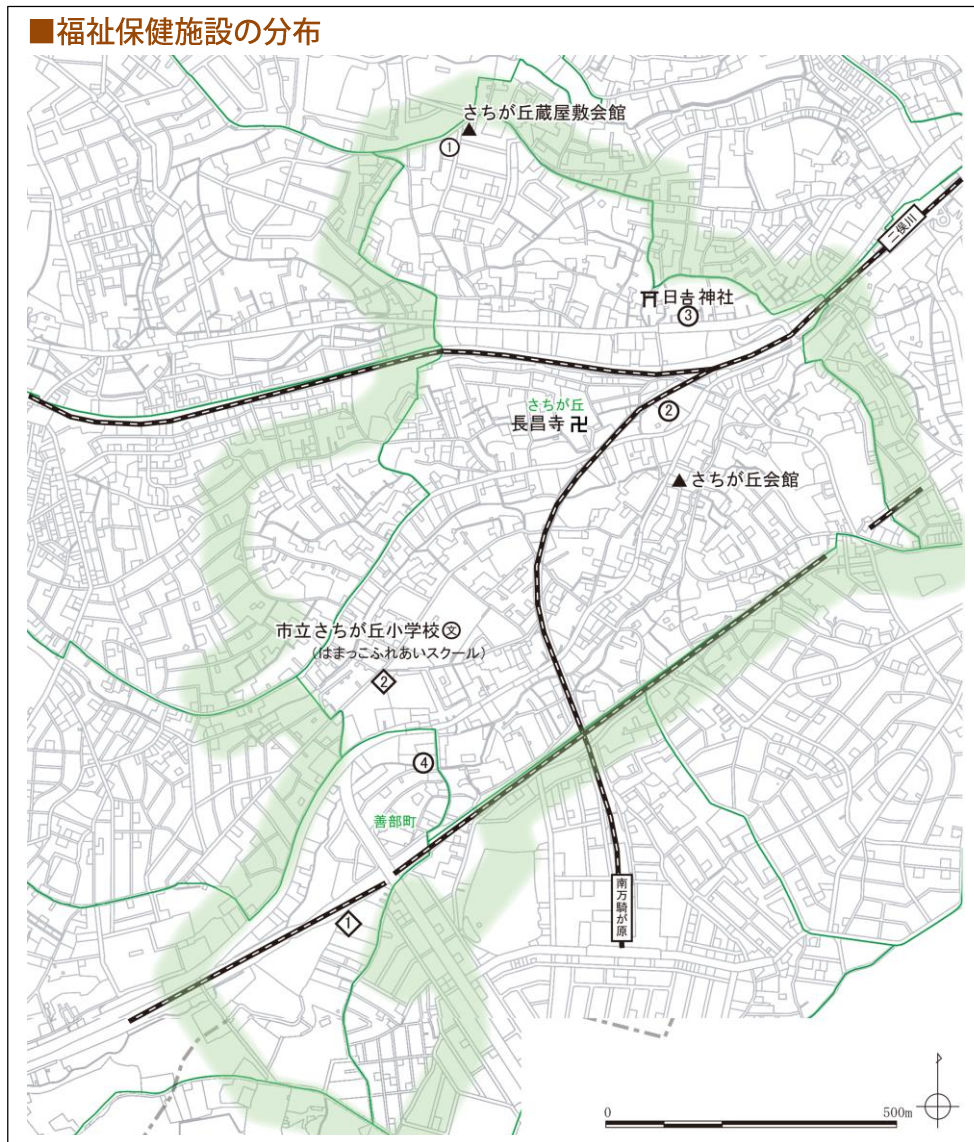


■ 2期計画の振り返り

- ・自治会の事情により、統一的な活動計画が実施できない。
- ・担い手（後継者）の育成が難しい。
- ・行事参加者をもっと増やす必要がある。PR等の工夫が必要。
- ・高齢化に合わせた行事を工夫する必要がある。
- ・老人会新規加入者及び行事参加者が減り、廃止という声も上がった。
- ・独居高齢者見守り、地域の担い手・後継者育成は各自治会の実情の違いから、統一した対応ができていない。
- ・災害時支援体制が整っていない。今後日頃の見守りや信頼関係が必要。
- ・イベント等はできるが、地道な日常活動を支えるサポーターが育っていない。

■地区の福祉課題

- ・団塊の世代、元気な高齢者に自治会・社協活動に参加してもらう必要がある。
- ・健康で長生きを実現するための仕組みをどう作るか。
- ・高齢化社会における「情報提供」「共助」体制（日常、災害時）の構築。
- ・地理的に活動場所が遠いのは高齢者の参加意欲に大きな影響がある。
- ・安心カードの充実、防災マニュアルの整備。



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 旭はるかぜ保育園
- ② 太陽の子さちが丘保育園

横浜保育室

- ③ マミー保育センター二俣川

幼稚園

- ④ 横浜三輪幼稚園

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① ミモザ横濱南万騎が原

特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)

- ② サニーライフ南万騎が原

万騎が原地区

万騎が原地区は、帷子川の支流である二俣川の南側丘陵地を、昭和30年～40年代にかけて開発された、戸建て住宅を主体とした住宅地です。

この5年間で人口、世帯数共に減少傾向にあり、人口構成をみると、高齢化が進んでいます。15歳から24歳、50歳から59歳、女性75歳以上の比率が高く、3世代同居家族が比較的多くみられる地区です。



■めざす地区の姿

・高齢者がいつまでもはつらつと暮らせるまち

・子どもの健やかな育ちと思いやりの心を育むまち

・住民一人ひとりが輝けるまち

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

高齢者の居場所・活躍の場づくり

- ラジオ体操、ウォーキング、シニアスポーツ等の機会を通じて健康増進を図り、仲間づくりにつなげる
- 新しい趣味をもてる機会をつくったり、特技などを地域活動の場面で、活用できる機会づくりをすすめる
- 参加しやすい行事を開催し、閉じこもりや孤立を防ぐ

【(連合)自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブを中心に】



裁縫ボランティア



敬老祝賀会でのコーラス発表



春のウォーキング

■目標B

地域のつながりづくりをすすめる

- 多世代が参加できるイベントを開催し住民同士のつながりをつくる
- 世代を超えての声掛けや近隣あいさつにより、お互いに知り合う関係をつくる
- 防犯・防災に強い地域をつくる
- 安心カード等による緊急連絡先の把握等により、平常時から支援の連携をつよめる
【(連合) 自治会、地区社協、民生委員・児童委員、家庭防災員、消費生活推進員を中心に】



芋煮フェスタ



地域の情報を発信



ふれあい運動会

■目標C

思いやりの心を育む地域をつくる

- 認知症の正しい理解者、認知症サポーターを増やし、地域で見守りの目を増やし支えていく
- 地域と学校が連携し、住民の様々な能力・経験を活かしながら、福祉教育を進める
- 地域行事の手伝い体験の機会拡大、ジュニアボランティア体験事業の拡充や、学齢期の担い手を育成する
- 障害福祉施設等との連携を図り、活動への協力や地域の行事への参加を呼び掛ける
【(連合) 自治会、地区社協、民生委員・児童委員、子ども会、障害者施設を中心に】



ジュニアボランティア@敬老祝賀会



芋煮フェスタハザードのお手伝い



万騎が原小学校50周年

■目標D

子どもにやさしいまちづくりをすすめる

- 自治会回覧、地域の子育てカレンダー等で、子育て関連の情報の発信をおこない、親子同士が出会う機会を増やす
- 公園等の場を活用し、多世代の交流の機会をつくり、地域で子どもを育てる意識を広める
【(連合) 自治会、地区社協、民生委員・児童委員、赤ちゃん訪問員を中心に】



子育てひろば
「あいうえお〜！」



昔あそび@保育園

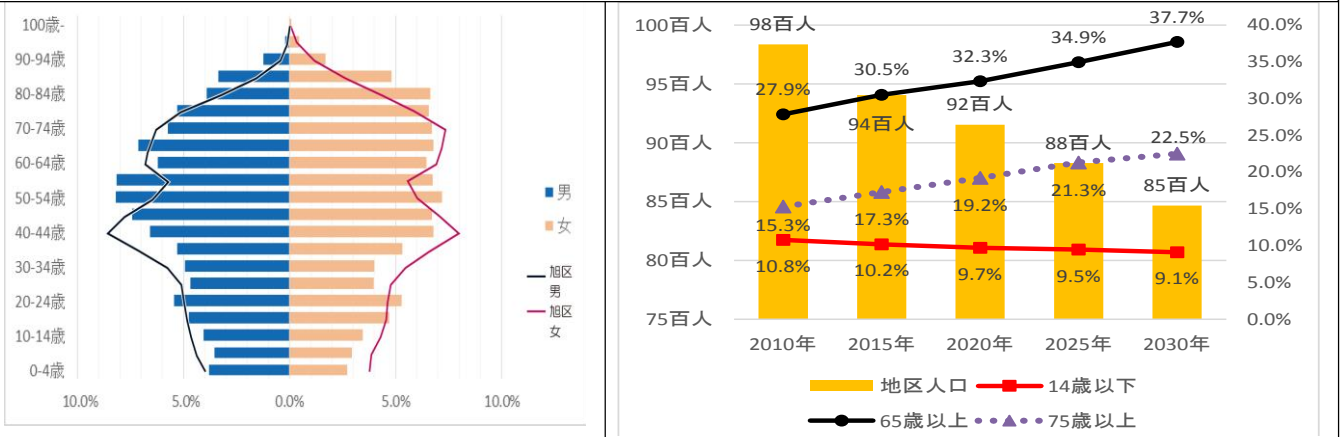


消費生活推進員による
啓発講座

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ、50歳から59歳、および女性75歳以上の層の比率が高くなっている一方、25歳から44歳までの層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約400人減少しています。高齢化率は2%以上増加し、旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約40戸減少しています。また、世帯人員は2015年で2.21人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約9200人、2025年で約8800人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約32.3%、2025年で約34.9%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

ウォーキング&お汁粉大会

担い手ボランティア、参加者ともに増え、行事企画において「参加したい」と思える魅力を持った企画の大切さを感じた。健康づくりや地域を知ることなど住民相互の交流の機会として継続する。

あんしんサポート手帳の発行&地区内団体台帳作成

一定の情報共有の元で会話をすることが可能になり、地区に対するあらたな認識を共有することも可能になりつつある。主体的な情報発信力が弱く、情報のメンテナンスが円滑ではない。

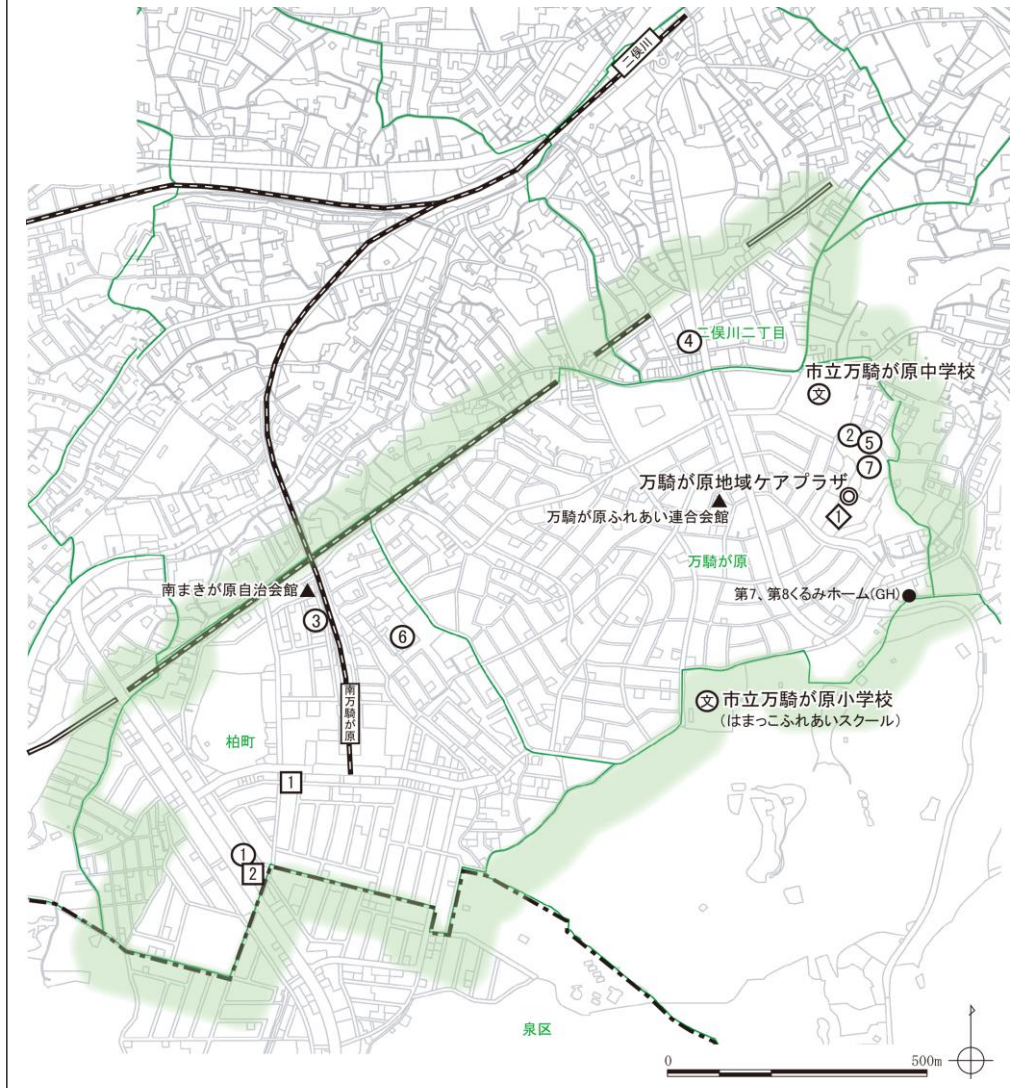
見守り活動推進事業

老人クラブ会員相互の関係を生かした見守り、老人クラブ非会員を意識した民生委員の見守り、また、相互の日常的な交流の場としての「たまり場・サロン」活動の多様なあり方について、研修会などを通して、認識を深められた。

■地区の福祉課題

- 1 認知症の人は、自ら支援を求めることが難しいため、地域における認知症の理解と、見守りや支援が充実するとよい。
- 2 単身世帯が増え、遠方に住んでいる家族との連携がとり難く、一人暮らしの方の緊急時の対応に苦慮している。地域の情報を適切に発信し、地域の中で見守りのネットワークをひろげていく。
- 3 介護予防、転倒予防、ラジオ体操など健康増進に心がけ、地域全体で健康に向けた取組みを継続する必要がある。参加者がいつも同じ傾向があり、新たな参加者を増やす工夫が必要。
- 4 老人クラブへの参加を増やしたり、地域の居場所を増やすことで、地域の顔の見える関係づくりを広げ、地域でみんなが活躍できる場づくり。
- 5 高齢者の個人差は大きい。高齢者個々の尊重、認知症の適切な対応など、子どものころから地域での福祉教育が必要。一方、高齢者からも経験や特技を生かした関わりができないか。
- 6 公園の規制などにより子どもが自由に遊べる場が少なくなっている。地域で子どもを育てる意識を持つ工夫ができないか。
- 7 保育園の園庭開放や子育て支援情報など、必要な人に必要な情報がもっと届くように。
- 8 現在あるジュニアボランティアを中学生・高校生にまで延長するなど、ボランティア活動経験者を増やす取組ができないか。
- 9 障害福祉施設のパンの製造・販売がおこなわれているが、地域住民となお一層、幅広く繋がることできないか。
- 10 ボランティアとして地域で活躍できる場の開拓と、ボランティアの養成。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

- 子ども**
- 認可保育所**
- ① 横浜市立柏保育園
 - ② まきが原愛児園
 - ③ のぞみ保育園
- 横浜保育室**
- ④ 夢未来二俣川園
- 放課後児童クラブ**
- ⑤ フレンドクラブ
- 幼稚園**
- ⑥ 柏幼稚園
 - ⑦ まきが原幼稚園

- 障害者**
- 就労支援センター**
- ① 横浜西部就労支援センター
- 障害者地域活動ホーム(地域作業所)**
- ② 連(れん)

- 高齢者**
- 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)**
- ◇① グリンサイド清盛

二俣川地区



二俣川地区は、二俣川駅周辺の相鉄本線と厚木街道を軸とする地区で、二俣川駅、保土ヶ谷バイパス本村ICがあり、交通の要衝です。また、区や県の公共施設や商業施設が集積しています。

人口構成をみると、25歳から54歳の生産人口が多く、高齢化の進行は比較的緩やかになっています。

■めざす地区の姿

- 地域の活動団体に新しい担い手が加わり、既存の活動が活発に行われている。
- 二俣川地域ケアプラザ(仮称)を利用した地域の活動が行われている。
- 地区内の地域防災拠点の連携や要援護者支援の取組が進み、災害時の体制が確立されている。

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気カアツ

地域への関心を高め、
ボランティア活動や地域の担い手につながる人づくりを進める

■具体的な取組

- 地域で高齢者を対象に家事援助（掃除、洗濯、買い物、除草、樹木剪定、病院送迎等）のボランティアに取り組んでいる「二俣川地区地域ケア 桐の会」のような活動を大切に、継続実施できるような体制を図る。
- 多世代交流を図る機会を作り、食事サービス「はなみずきの会」、子育て地域サロン「ピヨピヨクラブ」など、次世代ボランティアの育成を図る。
- 現在の活動を地区内で広く周知し、協力してくれる人や必要としている人を活動につなげる。
- 地域で子ども会等の活動が継続できるよう、活動支援を行う。



桐の会 植木の手入れ



はなみずきの会 食事風景



ピヨピヨクラブ 親子で体操

■目標B

子ども・高齢者等誰もが立ち寄れる場づくりを進める

■具体的な取組

- 二俣川地域ケアプラザ（仮称）を地域活動の拠点として活用する。
- 地域子育て支援拠点「ひなたぼっこ」と協力し、地域の担い手の発掘につなげる。



ひなたぼっこ ひろばの様子



ひなたぼっこ ランチタイム



ひなたぼっこ 育児講座

■目標C

災害時の要援護者の方への支援体制づくりを進める

■具体的な取組

- 地域住民向けの防災マップを作成し、活用できるよう周知する。
- 要援護者の名簿を確認し、具体的な活用方法について検討する。
- 二俣川地区周辺の地域防災拠点交流会を開催し、拠点間連携を図る。

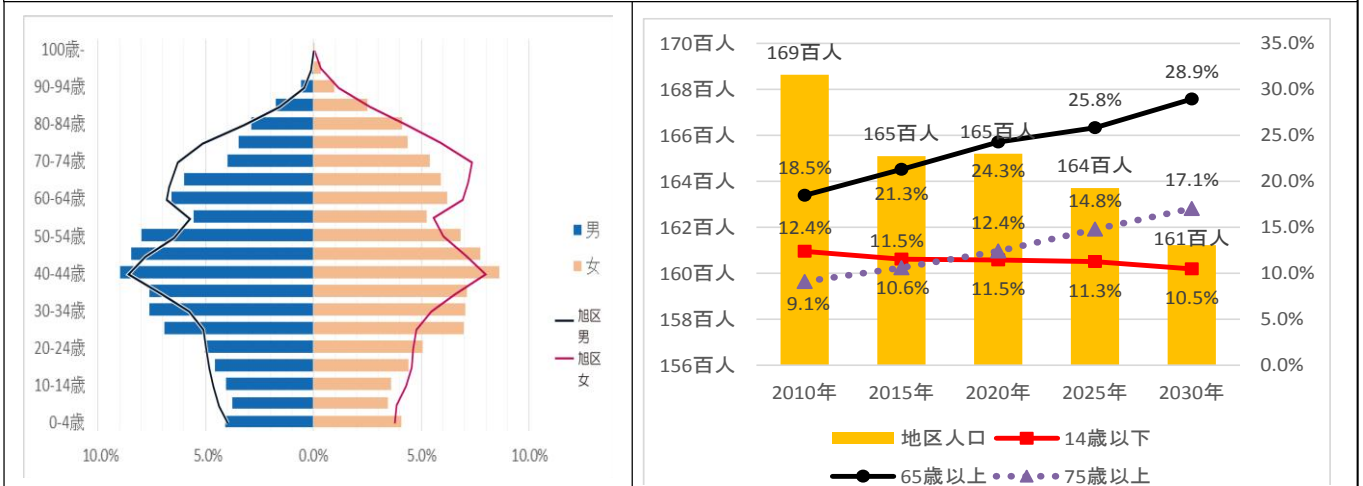


防災マップ 検討会

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 25 歳から 54 歳の層の比率が高いが、19 歳以下の層の比率は低くなっています。また、団塊世代の層の比率も低くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 400 人減少しています。高齢化率は 2.8%増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間でほぼ横ばいとなっています。また、世帯人員は 2015 年で 2.08 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 16500 人、2025 年で約 16400 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 24.3%、2025 年で約 25.8%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

【地域の交流】

- 健民祭：参加者が少なくなってきた。
- 餅つき：継続していきたいが、主催者側の高齢化が進んでいるので対策を考える必要がある。
- 旭区民スポーツ祭：子どもからお年寄りまで多世代の地域住民が参加し、定着している。
- クリーンキャンペーン：二俣川小学校運営協議会の主催で中学生、小学生が地域の団体等と一緒に清掃活動を行っている。
- 紙ヒコーキ大会：青少年指導員が企画運営し、子ども会がサポート。参加児童の減少傾向が続いている。

【地域の見守り】

- はなみずきの会（食事会）：大変盛況である。メンバーが固定化していて、新しい方が新規に入りにくいことが心配。
- 敬老のお祝い：単位自治会で実施している。
- 二俣川地区地域ケア桐の会（家事援助等ボランティア）：ニーズはあるが、ボランティアが減ってきている。活動しやすい環境づくりが必要。
- ひまわり会（中途障害リハビリ）：月に一度の集まりをととても楽しみにしている人が多い。参加者は減ってきている。

【子育て支援】

- ピヨピヨクラブ（地域子育てサロン）：PRの効果で参加人数が増えてきている。子どもがのびのび走れる場、また、母親同士の社交の場にもなっている。

【健康づくり】

- いきいき体操：ゆるやかに体を動かす体操で健康づくりに非常によい。
- グランドゴルフ大会：レクリエーション協会が道具を持っており、参加しやすい。
- 早朝ラジオ体操：有志で行っている自主的な取組だが、連合の広報にのせてみていいのではないか。

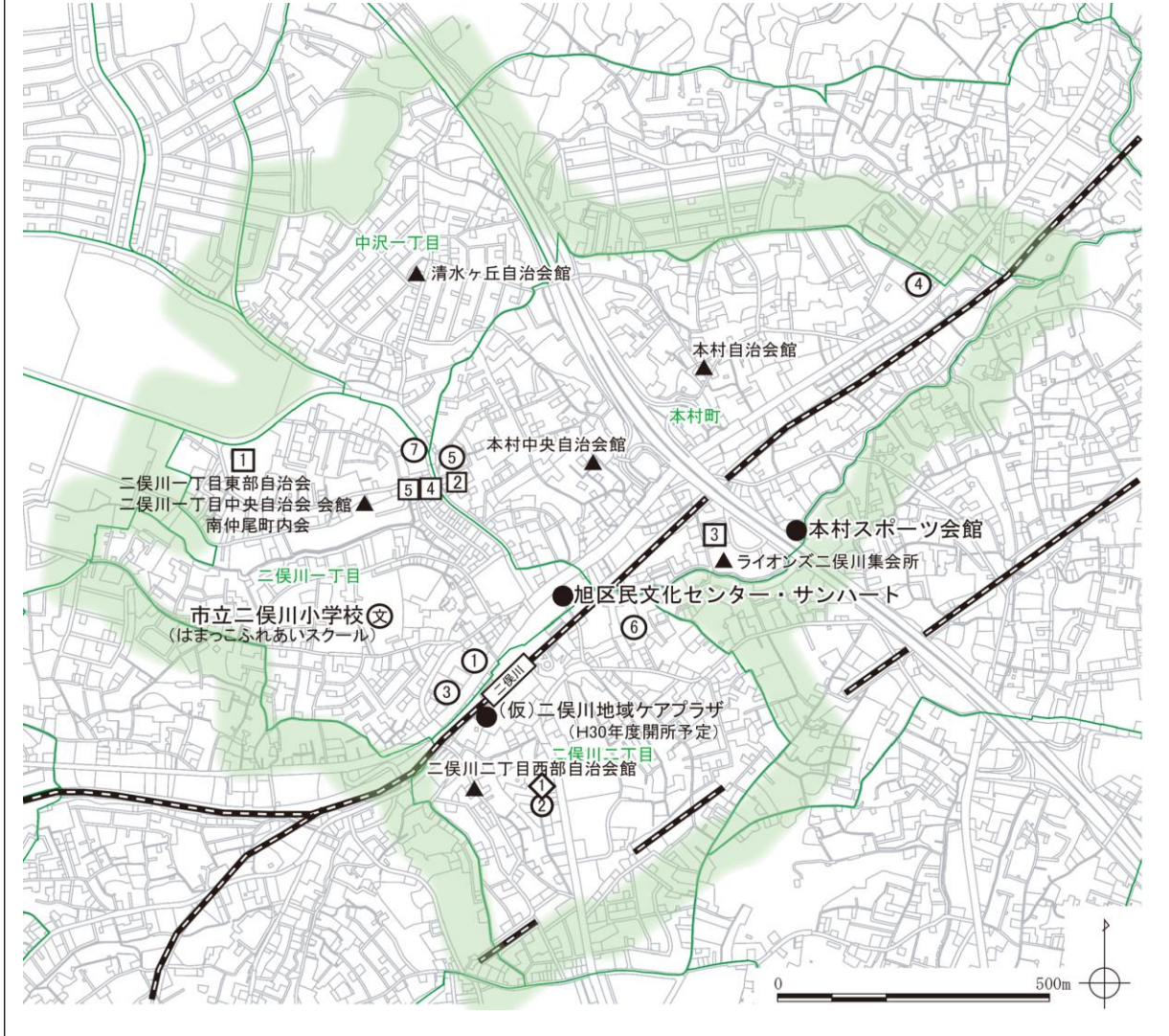
【安全・安心のまちづくり】

- 防犯キャンペーン・青色灯防犯パトロール：特定の人だけでなく順番に関わることで、地域の防犯意識を高めることにもなっている。引き続き実施しながら課題を検討していきたい。

■地区の福祉課題

- ・災害時の要援護者の方への支援体制について課題が残る。
- ・地域防災拠点が地域内に複数存在する為、地域の方がどこに避難すればよいのか、わかりにくい。
- ・「二俣川地区地域ケア 桐の会」（家事援助等ボランティア）の担い手が少ない。
- ・子育て地域サロン「ピヨピヨクラブ」の担い手育成。
- ・食事サービス「はなみずきの会」は参加者の固定化が課題。
- ・活動の場所が不足している。
- ・地域の各活動をもっとPRしていく必要がある。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認可保育所	障害者	障害者施設
	① 明德二俣川保育園		① 神奈川県ライトセンター
	② 横濱あんじゅ保育園		② くるみの木
	小規模保育事業		障害者地域活動ホーム
	③ 旭ローズ保育園		③ ふたまたがわ
	④ おれんじハウス二俣川保育園		中途障害者地域活動センター
	放課後児童クラブ		④ フェニックス旭
⑤ くれよん	地域活動支援センター(地域作業所)		
幼稚園	⑤ 工房アリアーレ	高齢者	小規模多機能型居宅介護
⑥ 横浜昭和幼稚園	① コラージュニ俣川		
地域子育て支援拠点			
⑦ ひなたぼっこ			

二俣川ニュータウン地区

二俣川ニュータウン地区は、区中西部に位置し、県運転免許試験場と保土ヶ谷バイパスにはさまれた丘陵部を開発して生まれたニュータウンと、その周辺の地区からなります。開発から約50年になります。

現在、11町内会・4000世帯、その9割を戸建て住宅が占めています。高齢化率は区内4位と高齢化が進んでいる地域です。



■めざす地区の姿

住んでよかったと思える街

～音楽が響き スポーツが盛んなまち みんなのふるさとニュータウン～

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

まちの魅力を伝える地域の情報共有

～「きょう用」がある「きょう行く」ところがある 生きがいのある街へ～

■具体的な取組

○A-1 まちの情報をつないで「見える化」する

- ・二期計画期間に作成した介護予防等地域活動一覧、マップをベースに「まちの魅力を伝える冊子」を作成・配布します。
 - ・地域の広報に掲載する情報を充実させ、活用を図ります。
- 「まちの魅力を伝える冊子」や「地域の広報誌」から「今日の用事」、「今日行くところ」を見つけて、生きがいのある街をめざします。

○A-2 誰でも参加できる公園での「ラジオ体操」の展開

公園でのラジオ体操をだれでも参加できる活動と位置づけ、開始する。顔みしりをつくり、老人会参加も促します。

○A-3 外出ボランティアの育成

既存ボランティア団体と連携を密にし、活動の土台をつくります。



コーラス「コスモス」



グラウンドゴルフ



金が谷公園のラジオ体操

■目標B

「ふるさと」を育む 幅広い区民参加の仕掛けづくり

■具体的な取組

○B-1 中高大学生が地域行事に主体的に参加できる仕組みづくり

夏祭り、運動会、音楽祭、敬老会、福祉まつり等様々な行事で地域と学校が連携し、中高大学生が行事の一部を担い、思いやりの心をはぐくむとともに、自分が役に立っている、必要とされているという気持ちを得る機会を作ります。

○B-2 行事の担い手・後継者を育てる

- ・町内会や各種委員、学校PTA 関係などの地域活動の経験ある方に呼びかけて、できるときに、できる範囲で、できることに手を挙げていただけるよう呼びかける仕組みを作ります。
- ・レクリエーション部（仮称）をつくり、地域住民へ参加を呼びかける仕組みを作ります。

○B-3 音楽が響き、スポーツが盛んな街づくり

地区内にはいくつも合唱団があり、小中学校の音楽活動が盛んです。多くの方が「聴く、歌う、奏でる」に参加する、響き合う街をつくります。

スポーツは体を健康にし、心は爽快で、そして笑顔をもたらします。ご近所のできる軽スポーツやレクリエーションを増やします。

年間を通じ様々な行事が展開されています



6月 福祉まつり

地域住民の献品によるバザーをはじめ各種団体の模擬店・三世代輪投げ・地場野菜の即売・工作教室など様々な催しが展開されています



8月 夏まつり

各町内会の神輿・山車の練り歩きを皮切りに各種団体による20の出店・盆踊り・大抽選会などなど二日間にわたりにぎやかに開催されます



10月 敬老のつどい

中沢小学校の合唱・旭中学校吹奏楽、国大民謡研究会による歌と演奏と踊りのパフォーマンスなどにより多くの元気をもらいます



10月 大運動会

未就学児から高齢者まで2千人が参加し町内対抗をはじめ17種目の競技が繰り広げられます



11月 マラソン大会

小学生から成人シニアまで200人を越えるランナーが参加し1周2キロのコースで健脚を競います



1月 音楽祭

富士見学園大講堂で開催され地区内の多くのコーラスグループによる合唱をはじめ、様々な演奏が奏でられます



1月 もちつき大会

80キロの餅をつき、あんこ・きなこ・大根おろしなどのくるみ餅に加え、防災拠点による豚汁もあります

■目標C

街の防災 自助・共助意識の向上と実践

～高齢化の下で災害時への備えを万全とし、安全で心の不安がない街づくり～

■具体的な取組

○C-1 自助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

防災訓練等を通じて、地震発生時のシェイクアウト行動（DROP 姿勢を低く屈む・COVER 机の下に潜る・HOLD ON 収まるまで動かない）の普及を図ると共に、住宅の耐震調査・耐震工事の実施、家具の転倒防止工事の実施、飲料水・食料品等の備蓄など自助意識の向上と実践に向け啓発を進めます。

シェイクアウト行動



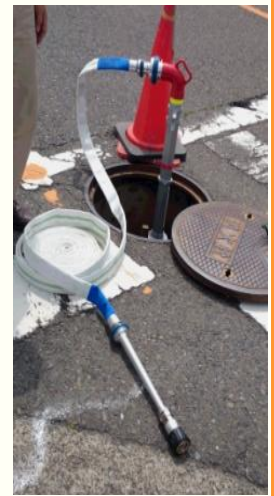
○C-2 共助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に引き続き取組むと共に、夜間の発災を想定した防災訓練を実施します。防災拠点でのペットへの対応策を検討します。災害ボランティアの育成と消防団組織づくりに取組めます。地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ（機材）を整備します。

「支え合いカード」を進展させ、支え、支えられる互助体制を構築します。



スタンドパイプと放水訓練



■目標D

見守り体制の充実と地域交流の場の拡充

■具体的な取組

○D-1 日常のみまもり活動をより充実に

散歩やゴミ出し等日常生活の中で登下校時の児童や高齢者等を地域で見守っていきます。民生委員や友愛活動推進員を中心にお困りの世帯など必要に応じて訪問対応をします。地域内のパトロールも防犯と共に子どもの見守りも行います。

○D-2 空き家を利用した地域交流サロン

持ち主のご協力の元、地域を中心に運営します。地域で活動しているボランティア団体等にも協力してもらい、誰もが立ち寄りやすいサロンを実施します。地域交流と共に、貸室の提供や今宿地域ケアプラザよる介護等の身近な相談活動も行います。



子育て「わいわいクラブ」



ミニディサービス「あかり」



サロン「あさひ」

ニュータウンコラム ～「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施～

ニュータウン通りに植栽された銀杏やトウカエデは大量の落葉を発生し、高齢化の進展の中で、沿道住民の大きな負担となっていました。

そこで、これらを支援するため「並木愛護会」を設立しました。サポーターを募集し、落葉の期間中週3回合計13回の清掃活動を実施しています。現在の登録サポーターは115名となっています。また、小・中学生の参加をえて、清掃大会（26年度は中学生52名が参加）・落葉アート（26年度は小学生38名が参加）を開催し、世代間交流の成果もあげています。引続き、事業を実施することが必要であります。財政面での課題があります。



ニュータウン通りの
黄葉の銀杏並木と
中学生も参加の清掃活動



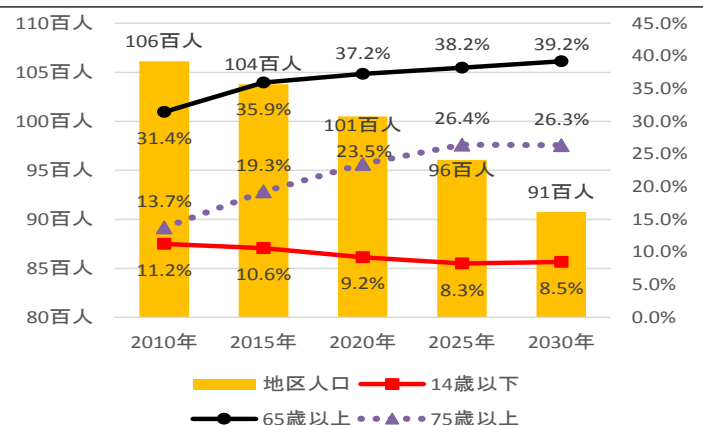
落葉アート制作風景



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上、特に70歳から80歳の層の比率が団塊世代の層よりも高くなっている一方で、20歳から39歳の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約200人減少しています。高齢化率は4.5%増の35.9%で旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約100戸増加しています。また、世帯人員は減少傾向にあります。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10100人、2025年で約9600人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約37.2%、2025年で約38.2%になり、75歳以上人口が減少に転じるため2030年以降の伸び率はほぼ横ばいになると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

① 「緊急時・救急キット」(健康カード)の整備

緊急時への対応や救急搬送などを迅速に行うため必要な情報(かかりつけ病院・持病の有無・薬の服用状況・連絡先など)をカードに記入しキットに入れ、各家庭の冷蔵庫に常備することを目的に、地区内の全世帯を対象に実施し、2町内会での全世帯整備をはじめ、全体では世帯加入率67%の整備を行うことができました。今後の課題としては健康カードの定期的な更新や未整備世帯への働きかけが必要です。

健康カード・カプセル



② 街の防災を見直すとともに、防災意識の向上をめざす

「防災懇話会」の開催、全世帯を対象とした「防災意識アンケート」の実施などにより、地域の防災課題を洗いなおすとともに、その課題解決に向け「防災連絡協議会」が組織され、「防災パンフレット」の作成・全世帯への配布、「災害時支えあいカード」の点検と再募集をはじめ、発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に取組み・実施した。また、地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ(機材)を試験的に1セット整備しました。引き続き、地域住民の防災意識の向上を図るとともに地域の防災を共有し、自助・共助の実践・取組みが必要です。

防災パンフレット



③ ニュータウン通り「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施

ニュータウン通りに植栽された大量の落葉を発生する銀杏やトウカエデの落葉清掃を「並木愛護会」を設立し、高齢化により清掃が負担となっている沿道住民を支援しました。(ニュータウンコラム参照)

④ その他

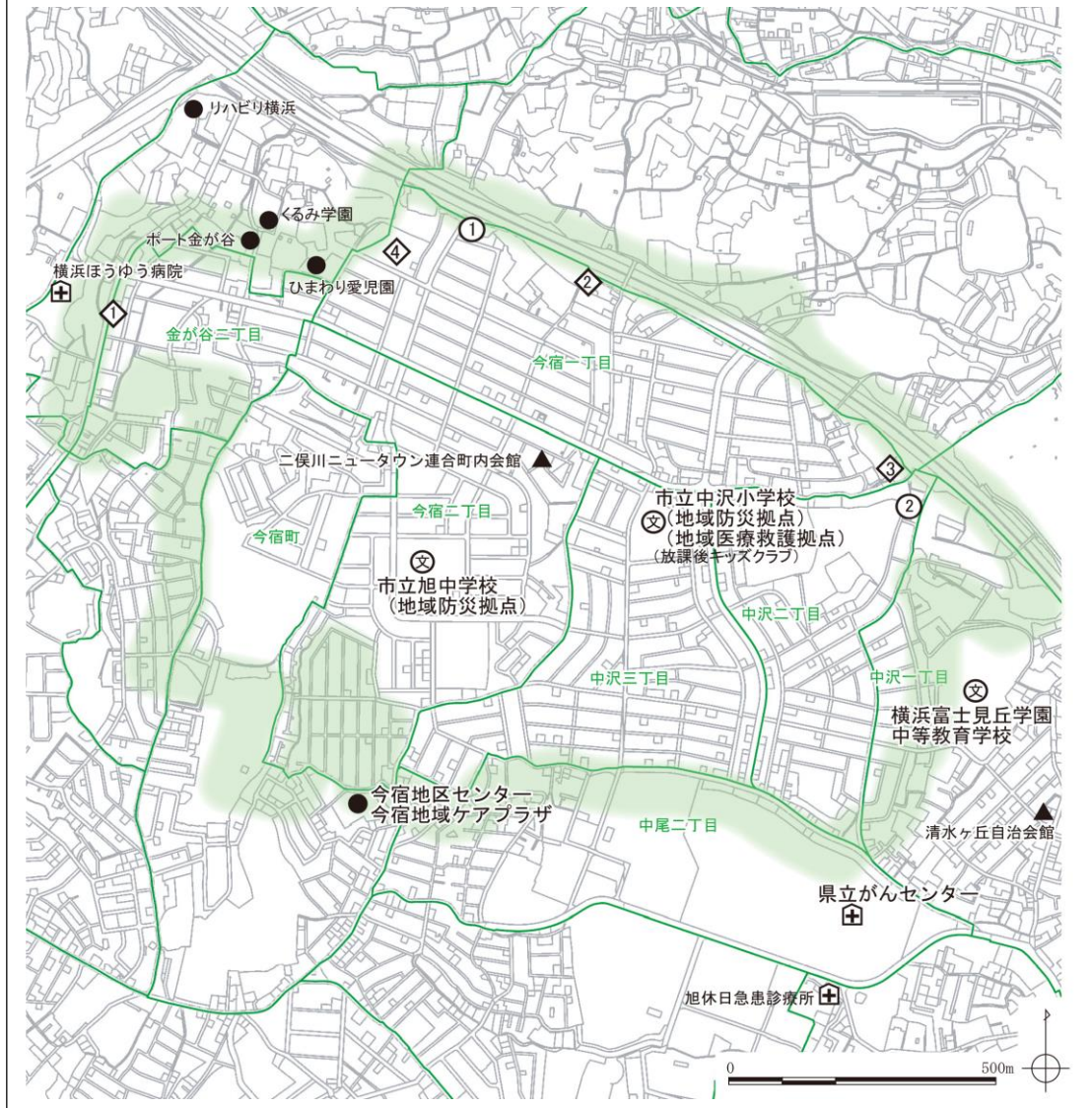
地域内の介護予防活動を把握するために、介護予防等地域活動一覧と活動場所を地図上に記したマップを作成しました。これにより、様々な地域活動の全体像を把握できたので、活用方法を検討していきます。

■ 地区の福祉課題

- ・地元で健康寿命を長くしたいが、新しい活動はとりまとめる人が大変で担い手がない
- ・老人会の加入率が低い
- ・介護予防等地域活動一覧の活用と広報を充実させていくこと
- ・日常の見守りの充実が必要
- ・子育て支援活動の拡充、整備、担い手の確保
- ・子育て世代がもっと地域へ目をむけてくれるようになること
- ・中高大学生ボランティア活動を活発にしていくこと
- ・地域行事を継続していくための後継者、担い手を確保すること
- ・常設サロンの開設・外出ボランティアの育成
- ・自助、共助の取組から防災意識の向上をめざしていくこと



■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

家庭的保育事業

- ① 瀬戸保育室

幼稚園

- ② しみずがおか幼稚園

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① アルメリア

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② みんなの家 横浜今宿

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ③ 今宿ホーム

- ④ 陽光苑

旭中央地区



旭中央地区は、北西から流れ込む帷子川と南西からの二俣川の合流地点の西側丘陵を主体にした地域です。分水嶺が町境となっています。市街化調整区域を含みますが、幹線道路に囲まれた地区となっています。

人口、世帯数ともほぼ横ばいで、年齢別人口構成は、旭区の平均と非常に近いものとなっています。

■めざす地区の姿

コミュニケーションが活発なまち

- ・この街に住んで良かったと思うまち
- ・お年寄りから子どもまで全ての人が、楽しく安心して生活できるまち

■3期計画の主なポイント

これまでの活動を継続しながら、地域の交流を深め、お互いに助けあえる環境を作ります

■目標A

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

地域交流の充実

■具体的な取組

- コミュニティバス「四季めぐり号」・・・コミュニティバス「四季めぐり号」運行委員会
- 災害時ひとりも見逃さない運動・・・自治会町内会・民生委員児童委員協議会
- 防犯パトロール・・・自治会町内会
- 三世代美サイクルふれあいのつどい・・・地区社会福祉協議会・地域住民

■目標B

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気カアッブ

高齢者支援の充実

■具体的な取組

○健康づくり

- ウォーキング・・・保健活動推進員
- 町ぐるみ健康づくり教室・・・自治会町内会

○ひとり暮らし高齢者昼食会

- ・・・地域ボランティア・民生委員児童委員協議会

○高齢者交流サロン

- ・・・地域ボランティア

○高齢者懇親会

- ・・・地区社会福祉協議会



■目標C

安心して子育てが出来る地域づくり

■具体的な取組

○子育て支援「かみふうせん」・・・民生委員児童委員協議会

○登下校見守り・・・自治会町内会



■目標D

障がい者理解の土壌づくり

■具体的な取組

○障がい施設が地域内になく、なかなか繋がる機会が少ないですが、相互に理解が深められるよう、障がいを理解できる土壌を作ります。

・・・地区社会福祉協議会・地域住民

三世代美サイクルふれあいのつどい

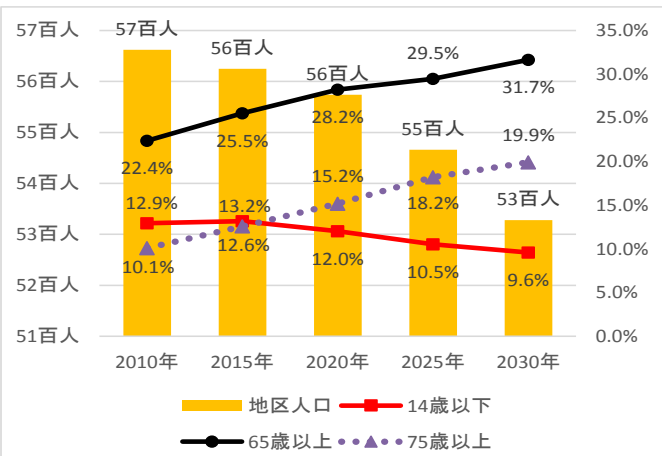
年齢や障がいの有無を問わず、広い世代が集い交流できる行事です。いつまでも「この街に住んでいてよかった」と地域の方々に感じてもらえるよう街の美化にも取り組んでいます。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区平均（折れ線）と比べてみると、特に女性はよく似た構成となっている。
- ・人口の推移では、この 5 年間でわずかに減少しました。高齢化率は約 3% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 50 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.32 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 5600 人、2025 年で約 5500 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 28.2%、2025 年で約 29.5%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



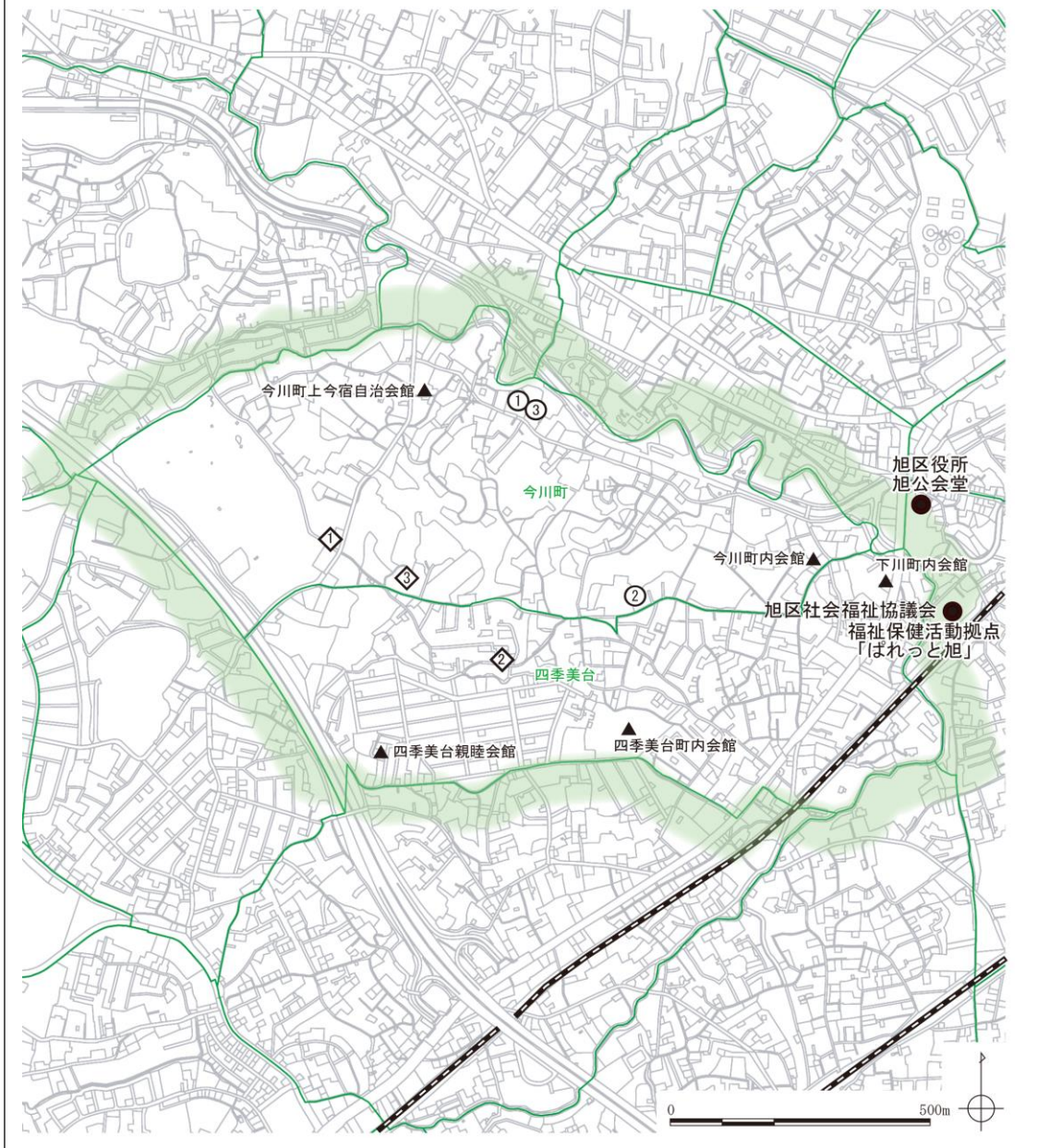
■ 2期計画の振り返り

- ・町ぐるみ健康づくり教室が地域内で開催され、自らの健康を気遣い生活をする高齢者が増えた。その結果、自治会町内会や保健活動推進委員が実施している、健康イベントに多くの方が参加している。
- ・高齢者昼食会のみならず、高齢者向けのサロンや居場所づくり事業が多くボランティアによって実施されている。また参加者だけでなくボランティアの活動場所・居場所にもなっている。
- ・子育て支援「かみふうせん」は親子で気軽に参加し、子どもを遊ばせながら子育てや生活の情報交換ができる機会となっており、多くの方が参加している。

■地区の福祉課題

- ・地域活動の担い手が高齢化してきている。
- ・新たな担い手がなかなか見つからない。
- ・子供の遊ぶ場所や、子供が地域と繋がる機会が少なくなっている。
- ・マンションが建ちはじめ、近所付き合いが少なくなっている。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認定保育所

- ① ちとせ保育園

認定こども園

- ② もりのこ

放課後児童クラブ

- ③ アガペー学童保育

高齢者

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ① のぞみの家

- ② あさひ別荘

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ③ 今川の郷

旭南部地区



旭南部地区は、区の南部に位置し、厚木街道付近から保土ヶ谷区境までの区域です。区域内を保土ヶ谷バイパスが縦断し、起伏に富み坂道が多いところで、南本宿市民の森、南本宿公園など緑に恵まれています。

地区内の高齢化率は区内で2番目に低く、15歳未満の人口比率は高く、今後も人口や子どもの増加が見込まれます。

■ めざす地区の姿

- ・地域の福祉課題を身近な問題として協力し合う土壌の育成が進んでいる。
- ・乳幼児から高齢者まで安心して暮らせるための諸活動が継続して行われている。
- ・障害児者等に関する認識アップと、支援に関する意識の向上が進んでいる。
- ・世代間交流を含めて、住民参加による明るいまちづくりが醸成されている。



- ☆ 地域の福祉保健活動を支える各団体の、活動の特性を踏まえた上で、各種情報の共有化や支援体制の育成を図り、地域を支える力としての福祉保健活動に関する意識の向上を目指す。
- ☆ 各計画に関しての主たる実行団体名を※印〔内〕に表示。

■ 目標A

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

地域の福祉力アップ

○福祉保健計画等の周知

- ・地域情報の共有化（連合自治会・社協機関誌や各自治会での情報提供促進）
 - ・福祉保健意識の向上（各団体活動での周知活動促進）
 - ・地域ケアプラザ活動の周知度アップ(広報紙の有効活用、出前講座等開催支援)
- ※〔地区全体〕
※〔連合・社協〕

○自助・共助の活動支援

- ・自助・共助活動の必要性再確認（個々人の立場で自助・共助を考える機会をつくる）
 - ・災害時を含む支援体制の構築と指針検討（団体ごとに指針を検討し地域での共有化を図る）
 - ・支援ボランティアの掘り起し（隣接地区等も視野に入れ支援者を募る）
- ※〔地区全体〕
※〔社協・民児協（民生委員児童委員連絡協議会）〕

○子ども参加行事支援

- ・子ども参加行事の開催と支援
（吹き矢大会・親子釣り大会・大縄跳び大会等の開催・支援）
※青指（青少年指導員連絡協議会）
地子連（地区子ども会連絡協議会）
- ・福祉体験活動への支援
（ジュニアボランティア活動の支援など）※〔民児協・社協〕



■目標B

安心して生活できる地域づくり

○顔の見える関係づくり

- ・地域住民間での関係づくり支援（高齢者を含めての地域情報の共有化と各種支援体制の模索）
※〔老ク（老人クラブ連合会）・民児協・社協・自治会〕
- ・各種見守り活動の支援（各団体間での連携強化と情報交換促進） ※〔老ク・民児協・自治会〕

○要援護者対策構築

- ・災害時要援護者体制の構築（平常時を含む） ※〔自治会・民児協・老ク〕
- ・平常時を含めての見守り強化（認知症対応等を含む見守り活動の近隣住民への協力要請等実施）
※〔自治会・民児協・老ク〕

○子育て不安解消など

- ・子育て中の親を含めての支援
（子育てサロン「ママ・キッズ」の活動推進） ※〔社協・民児協・他〕
- ・子どもの健全育成支援（青指主導の各種行事等への支援）※〔青指・社協〕
- ・児童の安全見守り活動支援（学援隊活動等の見守り活動の支援）
※〔PTA・自治会・老ク・他〕



■目標C

地域の元気がアッフ

○健康づくり推進

- ・連合・老ク連各種行事等支援（健民祭や老ク連の催事等を積極的に開催）※〔連合・老ク・社協〕
- ・体操教室他、開催と支援（保活主導の体操教室・ロコモ度チェック等の活動や、地域住民主体の体操教室等支援）
※〔保健活動推進委員会・社協・自治会〕



○高齢者の居場所づくり

- ・高齢者と介護者の居場所づくり（お茶のみ地域サロン「ほっと」の活性化）
※〔社協・民児協・老ク・他〕
- ・高齢者が地域行事等に積極的に参加しやすい仕組みづくり
（さらなる高齢化時代に向け、高齢者が地域活動に参加しやすい仕組みづくりを模索） ※〔社協・民児協・老ク・自治会〕



○障害児者関連支援

- ・障害児者・家族の要望等調査（当事者団体及び施設等からの要望等を把握し地域住民に情報等提供、支援を呼びかける）
- ・地域行事等への出番づくり（当事者や施設等を含めて協議の場を持つ）
※〔社協・民児協〕

○教育水田での米づくり

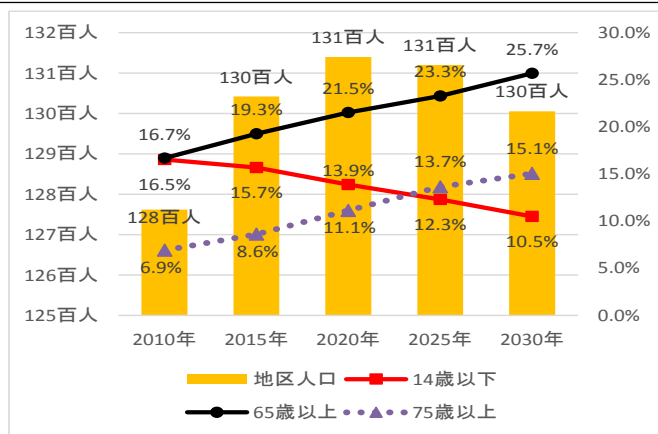
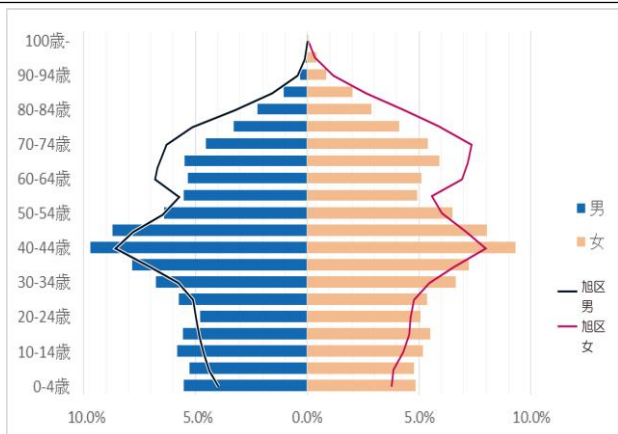
- ・3世代交流による米づくり（地域の稲作指導員と学校・PTAが連携して三世代交流活動としての米づくりを実施、食育活動・福祉活動にもつなげる）
※〔地域住民・PTA・他〕



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ、60 歳以上の層の比率が少なくなっています。15 歳以下も含め、49 歳以下の層の比率が区の平均よりも高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 200 人増加しています。高齢化率は 19.3%で、区内でも低い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 200 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.38 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年、および 2025 年で約 13100 人と見込まれ、2020 年をピークに減少すると見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 21.5%、2025 年で約 23.3%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2 期計画の振り返り

○子育て支援⇒未就園児親子の不安の解消、児童（親子）の健全育成に成果あり。

- ・ママ・キッズ、親子釣り大会、大縄跳び・吹き矢大会開催・支援等

〔民児協・地区社協・青指・地子連・ボランティア等〕

○高齢者支援・健康づくり支援⇒高齢者の不安解消、健康づくりに役立っている。

- ・ひとり暮らし高齢者交流会、見守り・友愛活動、健康体操教室等

〔民児協・地区社協・老ク・ボランティア・保健活動推進員、連合自治会〕

○まちづくり・他⇒地域内の交流(世代間を含め)と、防犯活動や災害時対策等に進捗が認められた。

- ・健民祭、防災訓練、防犯のつどい、災害時支援対策、教育水田活動、広報紙での情報共有化等
- ・障害児者等支援については状況把握の初期段階止まりである。

〔連合自治会（含、単位自治会）・地区社協・老ク・小学校（PTA）〕

■地区の福祉課題と対応

- ・地域を支える力としての福祉保健に関する意識の向上を図ることも必要。そのためには、地域における各種情報の共有化、支援体制の育成が必要。
- ・地域内各自治会の活動には違いがあり、福祉保健活動に関する意識にも差がある。連合自治会としての活動にはまとまりがあるので、それを軸に諸活動を推進することを視野に入れたい。
- ・地域内にケアプラザや地区センターが無く、中学校も無い。隣接地域の施設や学校との連携を視野に入れた活動の検討も必要と思われる。
- ・2025年・高齢化問題（団塊の世代⇒後期高齢者となる）に対する対応への検討も課題。
- ・子育てのしやすい環境の整備。（小・中学校等との連携を含め）
- ・障害児者に関する状況の認識アップと、支援に関する活動の掘り起しが課題。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

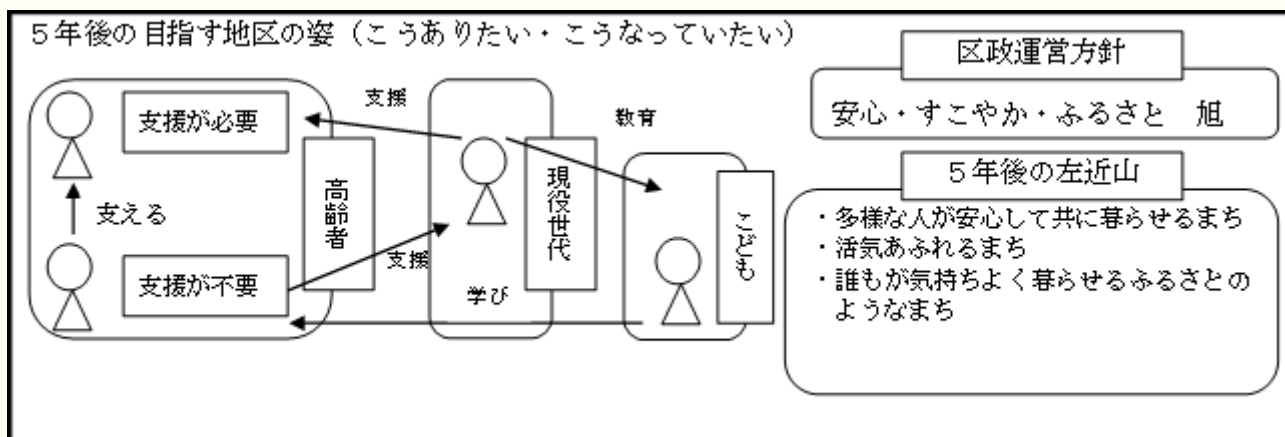
子ども	認可保育所	高齢者	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
	① 横浜小谷かなりや保育園		① フレンドィ本宿
	家庭的保育事業		② サリュールあさひ弐番館
	② みうら家庭保育所		ケアハウス
放課後児童クラブ	③ 学童の家わんぱく	③ グリーンヴィラ富士見	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
幼稚園	④ 本宿幼稚園	④ 富士見園	⑤ ヴィラ南本宿
障害者	障害者施設	⑥ ナーシングピア横浜	介護老人保健施設
	① まどか工房 I	⑦ ホームステーションらいふ二俣川	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)
	② 横浜マックデイケアセンター		

左近山地区

左近山地区は、旭区の南東に位置し、丘陵部分を中心に開発された集合住宅地です。開発初期に入居した人たちが中心の地区で、区内で最も高い高齢化率です。一方で、要介護認定率は区内で3番目に低いなど、元気な高齢者が多い地区です。子どもや高齢者が安心して、遊べる広い公園が多くあり、スーパーが近くにあるなど生活環境も整っています。



■めざす地区の姿



■目標A

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

多様な人が安心して暮らせるまち

■具体的な取組

- ・ほっとさこんやま等地域交流サロンの活用（地域支援部会）
- ・空とぶくじら社の地域イベントへの参加交流
- ・団地祭での福祉相談コーナーの開設

ほっとさこんやまの有効な活用のために
地域でできそうなこと

地域の方にもっと知ってもらい利用者を増やしたい。

友人を誘ったり、子どもを連れてランチに行ったりしたい。

イベントに参加したり、会合でほっとさこんやまを利用したい。

子どもと一緒に参加できるようなイベントができるといいな。



ほっとさこんやま

■目標B

みんなで支えあうふるさと左近山

■具体的な取組

- ・新たな地域ボランティアの育成（PTA層への協力依頼）
- ・認知症サポーターの育成により、認知症の人を地域で見守る体制の強化
- ・民生委員、地区社協、老人クラブ、ボランティア団体による見守り

地域ボランティア育成のために
地域でできそうなこと

地域の人達が知り合いになれるように、あ
いさつや声かけが大事。

ボランティアや地域活動についてPRをし
て、粘り強くお誘いしていきたい。

認知症や介護技術の学習会を開きたい。

地域課題の解決に向けて、小中学生や高
校生も参画した取組みをしたい。

子ども向けのイベントへの積極的参加を
PTA層へ周知して、若い世代にも地域活
動に関わってもらいたい。



■目標C

活気あふれるまち

■具体的な取組

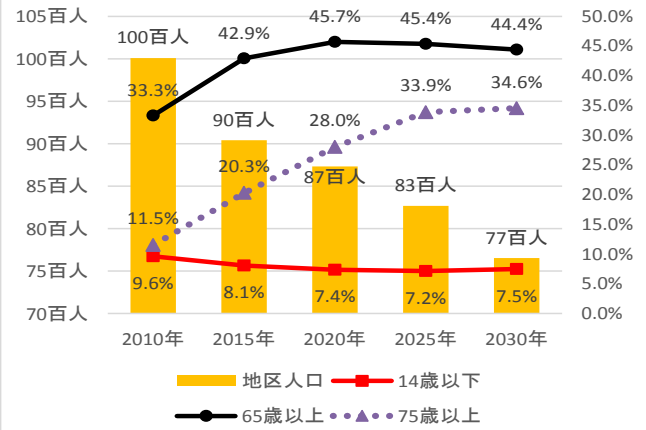
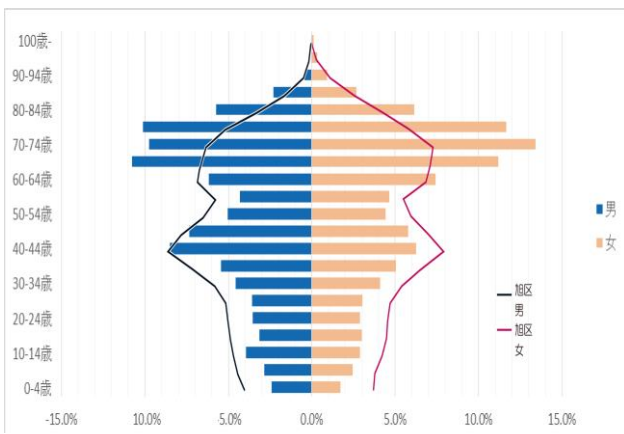
- ・ウォーキング、グランドゴルフ、スタンプラリー等の多世代交流ができるイベントの開催（マップ作成）
- ・商店街の賑わい創出等
- ・老人クラブ活動との連携



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 65 歳以上の層の比率が大変高くなっています。一方で、他の年齢層の比率はほとんどが区平均を下回っています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 1000 人減少しています。高齢化率は 9.6%増の 42.9%で、区内で最も高くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 140 戸減少しています。また、世帯人員は 2015 年で 1.94 人/戸で、2 人を下回っています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 8700 人、2025 年で約 8300 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年でピークをむかえ約 45.7%、2025 年で約 45.4%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

- ・「高齢者と地域のつながりづくり事業」をきっかけとして、NPO 法人オールさこんやまが立ち上がり、地域交流拠点として「ほっとさこんやま」が開所した。
- ・ウォーキングについては、年 3 回実施が定着するとともに、地区内にある障害者施設からも毎回参加してくれるようになった。
- ・輪投げ、ストラックアウトなど子どもでも楽しめるイベントを「スタンプラリー」形式で実施した結果、これまで少なかった小学生や親子での参加が増えた。

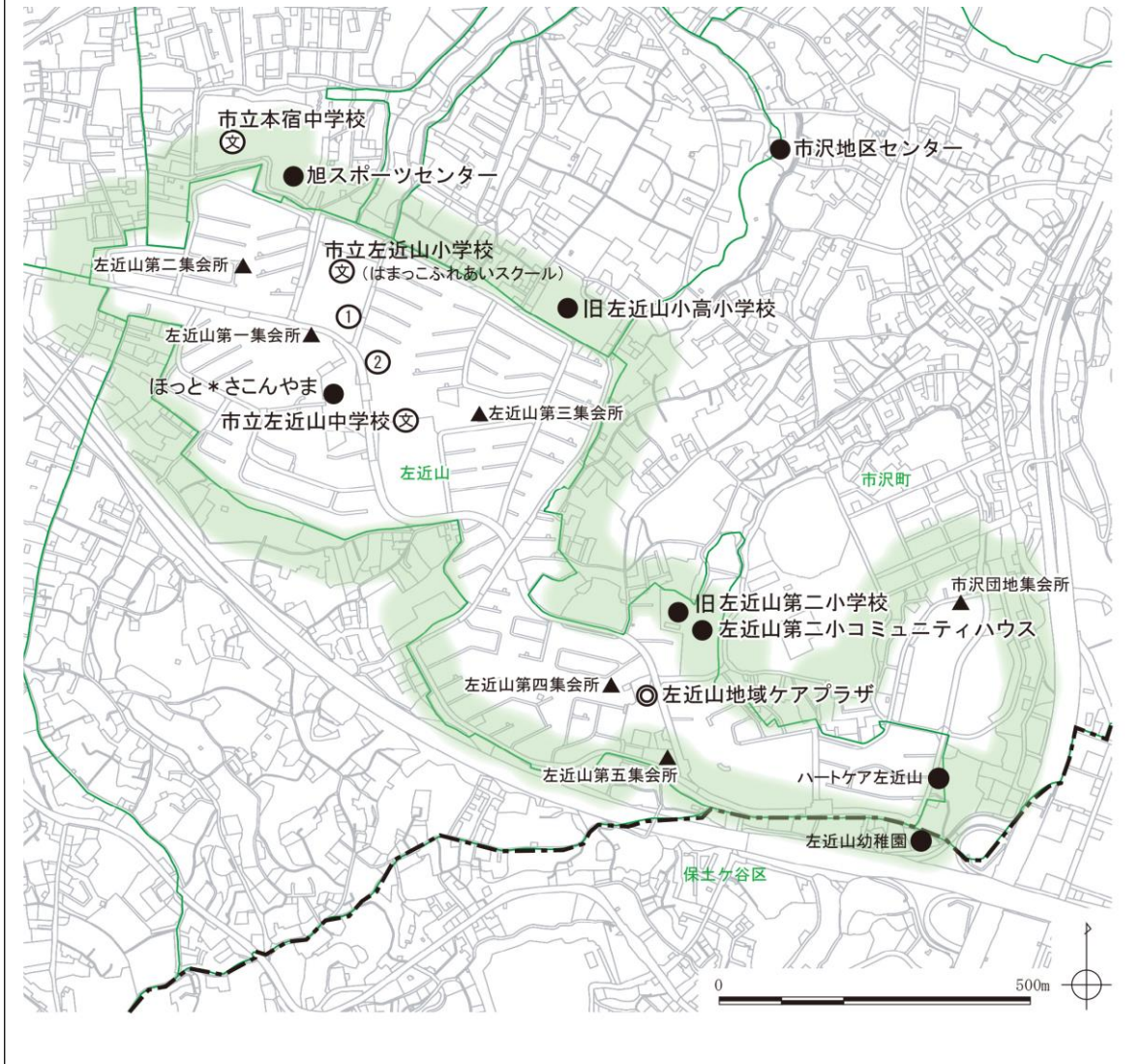
取組が進んだ要因

- ・ 1 つひとつの事業について、実行委員会を開催し支えあいネットワーク全体で取り組むことができています。
- ・ 支えあいネットワークに旭スポーツセンターが入っており、事業実施に大きな協力が得られている。

■地区の福祉課題

- 40%を超える高い高齢化率 ⇒ 高齢者の孤立化、認知症、転倒などケガのリスクが高まる。
- 出生率は 8.2%と旭区内で最も低い ⇒ 公園が多く、子どもが遊びやすい環境をもっと P R することで、子育て層住民を呼び込むことができる。
- 要介護認定率は 13.8%と旭区 19 地区で 3 番目に低い (旭区平均は 17.3%)
介護予防の意識が高い ⇒ つまり、元気な高齢者が多い！
元気な高齢者が、地域を支える担い手として活躍している。
新たな担い手の発掘で地域全体をもっと元気にしていくことができる。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 横浜市立左近山保育園

放課後児童クラブ

- ② スマイル

市沢地区

市沢地区は、区の南東に位置し、保土ヶ谷区の陣ヶ下溪谷を形づくる谷の源流域にあたります。南北に環状2号線が通り、住宅地と農地・樹林地に土地利用が分かれています。

人口、世帯数ともに5年間で増加していますが、1世帯当たりの人員数は、2.36人/戸で変わりません。若い年代が多く、高齢化の進行が遅い地区です。



■めざす地区の姿

- 町内会・子ども会・老人会の加入者が増え、日常的な見守り活動の体制が整い、顔の見える関係から声を掛け合う関係へと変わっている。
- 町内行事の「見える化」を行い、情報が地域住民に届いている。
- 地域の抱える福祉課題の「見える化」を行い、地域住民の理解が進んでいる。

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

地域交流の活性化

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会などが連携し、交流の場として神田公園を活用する。
- 学校との連携による、こどもたちも参加できるイベントの開催と工夫。
- 地区センターと地域の双方のためになるような取組をすすめる。



子ども会いちご狩り



三世代ラジオ体操



運動会

■目標B

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

情報発信の「見える化」で地域の理解を深める

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会の活動に活動内容の見える化によるPRで、理解し参加してもらう。
- 掲示板の活用など、情報の周知方法を工夫する。
- 市沢地区連合町内会と市沢地区社会福祉協議会合同の「市沢地区だより」を発行し、町内会未加入者にも配布する。



獅子舞



消火訓練



高齢者を祝う集い

■目標C

災害時だけでなく、日常時の要援護者見守り体制を整える

■具体的な取組

- 災害時要援護者支援カードの見直しにより、防災マップ（要支援者・支援者情報の落とし込み）を作成し、日常時の見守りにつなげる。
- 町内会未加入者も含めた災害時の要援護者を支援する体制について検討する。
（区との協定による要援護者名簿の受領）
- 地域でちょこっと応援団（仮称）を立ち上げ、日常のたすけあい体制をつくる。



防災訓練



要援護者支援カードの保管



一時避難場所設定

■目標D

地域活動者の担い手づくり

■具体的な取組

- 市沢まつりをきっかけに中高生のボランティアや町内会未加入者の地域活動への参加を促す。
- 特技や経験を発揮する場をつくるため、土曜塾のようなものを復活させる。
- 各団体の情報共有の場を設け、団体相互の連携により、取組状況を地区の中で共有して地域活動しやすい環境をつくる。



市沢フェスタ餅つき



盆踊り

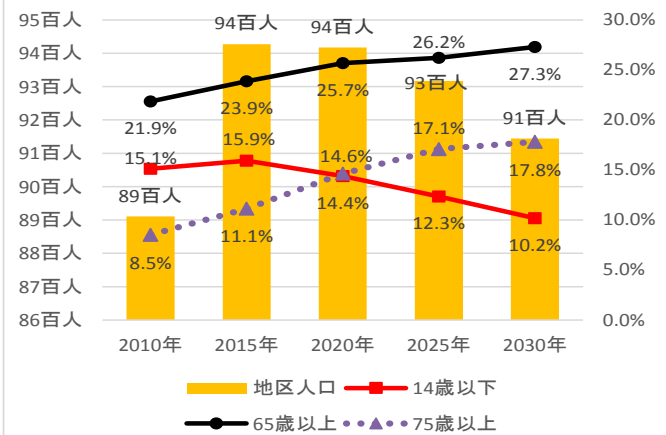
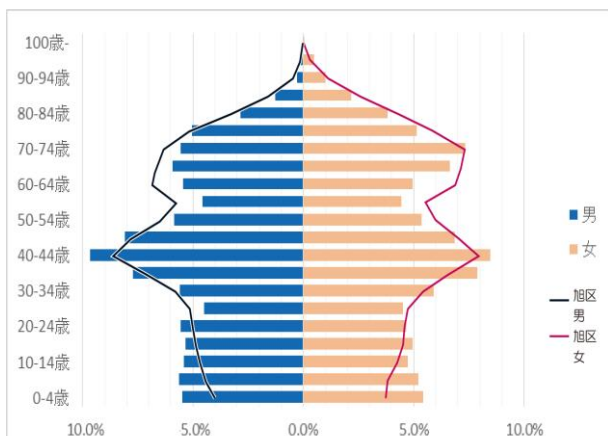


グランドゴルフ

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ55歳以上の層の比率が低く、35歳から49歳の層の比率が高くなっています。また、区平均に比べ14歳以下の層の比率が高くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約500人増加しています。高齢化率は2%増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約230戸以上増加しているが、世帯人員はほぼ変化せず、2015年で2.36人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約9400人、2025年で約9300人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約25.7%、2025年で約26.2%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

- 安全安心のまちづくり分科会、顔の見える関係づくり分科会、子育て支援分科会の3分科会を立ち上げ、地域の課題を分科会毎に話し合い、取り組んだ。
- 災害時要援護者支援カードを作成し、組長や班長など支援者も決定し保管体制も整えた。
- 地区内に（全47箇所）一時避難場所の設置。防災訓練で、参加住民が一時避難場所から防災拠点へ避難する訓練を行っている。
- 子育て支援に携わる団体どうしが共催でイベントを開催するなど、協力関係を築くことができた。
- 災害時ボランティア育成、組織化が進まなかった要因として、第2期計画当時は若い世代を集めて教育していく構想があったが、具体的な活動のイメージが固まらなかったこともあり、他の取組が優先となっていた。

■地区の福祉課題

【所属団体の加入者減少・活動者の不足】

- ・町内会未加入者が多数のため、災害時に支援を必要としている方を把握できていない。
- ・災害時の見守り体制については検討しているが、日常時の見守り体制が整っていない。
- ・子育て世代は共働きが多く、地域とのかかわりが難しくなっている（子ども会未加入者も多い）。

【情報発信】

- ・子育て世代が地域のことを良く知らない。
- ・イベントを開催しても、毎回参加者や担い手の顔ぶれがいつも同じ。

【子育て世帯の支援】

- ・留守家庭児童が増えている。
(共働き世帯が多いので、親も精一杯の様子。子どもだけでなく親の支援も必要)

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認可保育所	障害者	障害者施設
	① マヤ保育園		① 第一空とぶくじら社
	小規模保育事業		② 第二空とぶくじら社
	② 保育室ひかり		③ 第三空とぶくじら社
放課後児童クラブ	高齢者	地域活動支援センター(地域作業所)	
③ 市沢学童クラブ		④ もみの木第1作業所	
幼稚園	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	① 華寿園	
④ 左近山幼稚園	介護老人保健施設	② ハートケア左近山	

第5章 計画の推進に向けて

5-1 計画の推進体制

(1) 第3期計画の推進体制

第3期旭区地域福祉保健計画は、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、共同事務局として計画全体の総合的な調整や進行管理を行います。

区全域計画については、自治会町内会をはじめとした地域の関係団体の代表者で構成する旭区地域福祉保健推進会議が、事務局の報告により計画の進捗状況を確認し、必要な取組の検討等を通じて計画を推進します。

地区別計画については、各地区の地区別計画推進組織が中心となり地区別支援チームも連携しながら、進捗状況の管理や具体的な取組内容を検討し取組を推進します。

(2) 地区別計画推進組織の体制

各地区の地区別計画推進組織は、主に自治会町内会をはじめ、地区社協、民生委員から当事者団体等まで、地区の状況や課題に応じて様々な地域の関係者により構成されています。

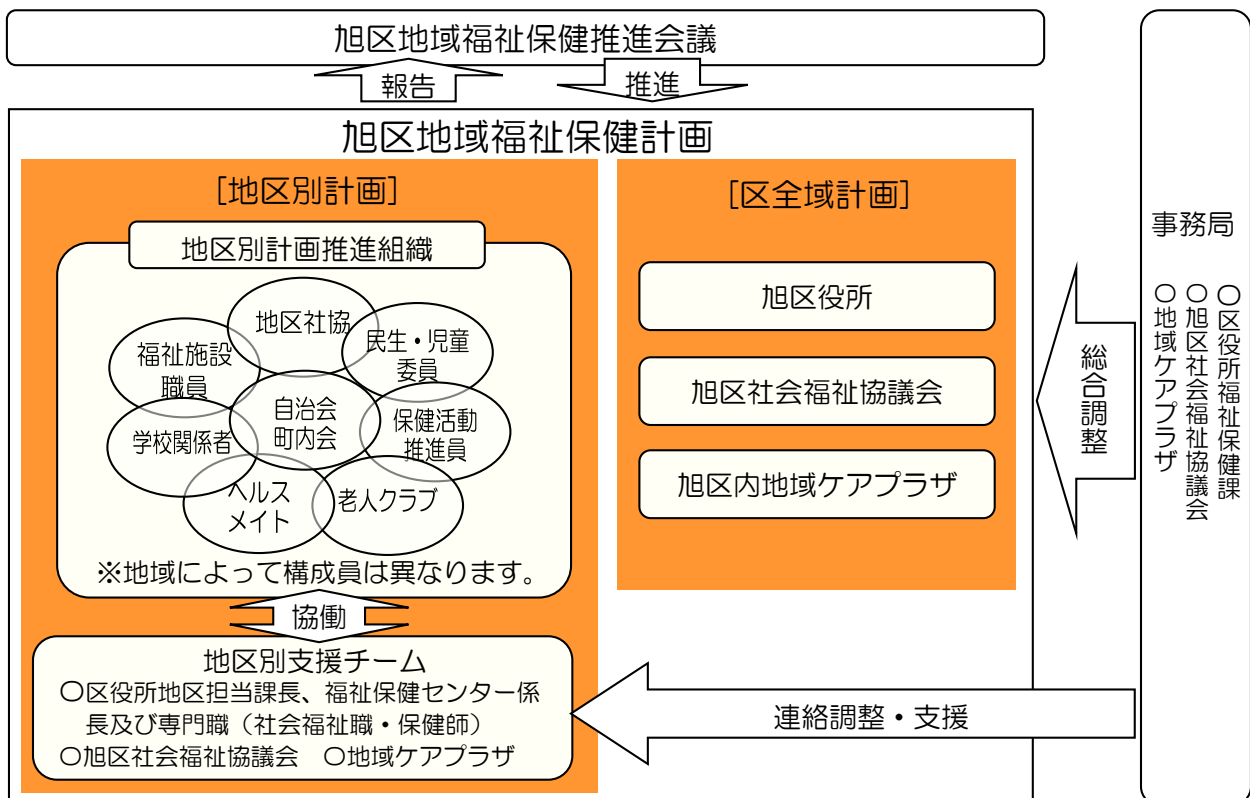
地区の取組の進捗状況の確認を行いながら、地区別計画を推進していきます。

(3) 地区別支援チームの役割

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザで構成する地区別支援チームを設置しています。

地区別支援チームは、地区別計画推進組織の会議等に参加し、地区の状況や課題の把握・整理、課題や取組の提案等を通じて、地区別計画推進組織と協働して計画の推進に取り組みます。

【計画推進体制】



【参考資料】

(1) 第3期計画の策定経過

年月	区全域計画	地区別計画	
平成26年度	5月		
	6月		
	7月	第1回検討部会(7/29)	
	8月	第2回検討部会(8/26)	
	9月	第2回地域福祉保健推進会議(9/10)	
	10月		きらっとあさひ地区連絡会(10/30)
	11月	団体ヒアリング(7団体に実施)	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックス(1月) ・めばえ(1月) ・工房アリアーレ(1月) ・ヘルスメイト(1, 2月) ・こそだちしえん・あさひ(2月) ・区子ども会育成連絡協議会(1月) 	
	1月		
	2月		第2期計画の振り返り 第3期計画に向けて福祉課題の確認
	3月	第3回検討部会(2/16)	きらっとあさひ地区連絡会(3/4)
	平成27年度	4月	旭区 第3期地域福祉保健計画骨子案策定
5月		第1回地域福祉保健推進会議(5/13)	
6月			
7月		第1回検討部会(7/30)	
8月		第2回検討部会(8/31)	
9月		第3回検討部会(9/28)	
10月		第2回地域福祉保健推進会議(10/7)	
11月		旭区 第3期地域福祉保健計画(素案) 策定	
12月		区民意見募集(11/24~12/24)	
1月		旭区 第3期地域福祉保健計画(原案) 策定	
2月		第3回地域福祉保健推進会議(2/3)	
3月	旭区 第3期地域福祉保健計画 策定		

(2) 素案意見募集結果

第3期旭区地域福祉保健計画の策定にあたり、区民意見を反映するために区民意見募集を実施しました。

① 実施期間

平成27年11月24日（火）から12月24日（木）

② 周知方法

ア 素案冊子の配布 420部

区役所（福祉保健課）、旭区区社会福祉協議会、区内の地域ケアプラザの各窓口

イ 関係団体等への説明

区連合自治会町内会連絡協議会、区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、区保健活動推進委員会

ウ 旭区役所・旭区社会福祉協議会のホームページ、広報よこはま11月号への掲載等

③ 実施結果

ア 意見総数

総計 20件

イ 項目別意見数

項 目	意見数
第1章 計画の策定にあたって（計画のあらまし）	3件
第2章 第3期計画の基本的考え方（理念、位置づけ）	2件
第3章 区全域計画における施策 柱1に関する事	3件
柱2に関する事	3件
柱3に関する事	0件
計画全体に関する質問・感想など	9件
合 計	20件

ウ 提出された意見への対応の考え方

項 目	意見数
計画（素案）にご賛同いただいたもの	4件
意見の趣旨が計画（素案）に含まれているもの	4件
計画に反映するもの	5件
質問・感想など	7件
合 計	20件

(3) 推進委員及び検討部会委員の名簿

	氏名(敬称略)	所属
旭区地域福祉保健推進会議	相澤 一喜	旭区医師会代表
	池田 宏史	旭区社会福祉協議会会長
	岡田 朋子	福祉と保健の生活課題を考える会代表
	梶原 端之	旭区肢体不自由児(者)父母の会会長
	洪 正順	旭ケアマネット代表
	齊藤 由紀子	旭区保健活動推進員会長
	佐々木 明男	旭区連合自治会町内会連絡協議会会長
	水野 智也	旭区地域自立支援協議会代表
	中野 文雄	旭区老人クラブ連合会会長
	中村 広子	旭区子育て支援拠点運営法人代表
	西山 宏二郎	旭区内社会福祉施設事業者
	橋本 邦子	旭区民生委員児童委員協議会会長
	林 正男	旭区障害児者団体連絡会会長
	眞鍋 貴子	旭区ボランティア連絡会会長
検討部会委員	牛山 知子	NPO 法人こそだちしえんあさひ元理事
	岡田 朋子	福祉と保健の生活課題を考える会代表
	齊藤 由紀子	旭区保健活動推進員会長
	水野 智也	旭区地域自立支援協議会代表
	渡邊 多喜男	旭区民生委員・児童委員協議会監事

(4) 用語解説

本文中の単語の下に点線を引いたものを対象に、用語解説を掲載しています。

項目	用語	解説
4	区づくり自主企画事業	区が地域の身近な課題やニーズに基づいて、特色のある取組みができるように独自に企画し、執行する事業
6	ライフサポート事業	社会福祉法人による社会貢献・地域貢献として、神奈川県社会福祉協議会が主体となり、県内の参加法人による財源・人的支出をもとに相談支援を行う事業
7	善意銀行	善意の寄付（金銭や物品）を当事者団体、社会福祉施設、地域福祉活動団体など、さまざまな地域福祉事業で役立てようとする「善意の橋渡し」の仕組み
10	セルフネグレクト	一人暮らしの高齢者などで、認知症やうつなどのために生活能力・意欲が低下し、極端に不衛生な環境で生活している、必要な栄養摂取ができていない等、客観的にみると本人の人権が侵害されている事例
12	認知症サポーター	認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者で、認知症サポーター養成講座を受講・修了した者を称する名称。サポーター数約9千人（平成27年11月末現在）
13	あさひ安全・安心かわら版	携帯電話またはパソコンのメールアドレスを登録することにより、旭区の安全・安心に関する情報を受信できるシステム。区内で発生した犯罪や不審電話、認知症による行方不明者等の情報を配信している
14	あんしんセンター	生活や金銭管理など幅広く権利擁護に関する相談を受けるとともに、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などが困難な高齢の方や障がいのある方を支援する
14	後見的支援制度	横浜市の「将来にわたるあんしん施策」の一つとして、障がいのある方が地域で安心して暮らすために必要な日常生活の見守りや、必要に応じて定期訪問のほか将来の不安や希望を適切な機関へつなぐ制度
14	権利擁護	自己の権利や意思を表明することが困難な認知症高齢者、知的障がい者等の福祉サービス利用者の意思決定を援助し、支援を行うこと
15	特別避難場所	地域防災拠点での避難生活が困難な高齢者や障がい児者等、在宅要援護者のための避難場所
17	ユースプラザ	不登校やひきこもり状態など困難を抱える青少年の自立を支援するため、総合相談、自立に向けた居場所の運営、社会体験や就労体験を実施している。市内に方面別に4か所設置され、旭区は西部ユースプラザが担当している
17	就労準備支援事業	就労体験が乏しく直ちに求職活動を行うことが困難な生活保護受給者および生活困窮者に対し、職場実習活動等により、社会参加や就労体験の支援を行う事業

項目	用語	解説
17	よこはま型若者自立塾	長期にわたって不登校やひきこもり状態にあった方を対象に、共同生活を通じて、生活リズムの立て直しや低下した体力を回復するための身体づくり、グループ活動を通じたコミュニケーション能力の改善を行うとともに、様々な社会体験活動を行いながら、若者の社会的、職業的自立を支援する事業
17	中間的就労	直ちに一般的就労を目指すのが困難な人に対する、社会的な自立への支援を組み込んだ就労のこと
18	ふれあい収集	自ら家庭ごみを集積場所まで持ち出すことのできない一人暮らしの方の玄関先などから、直接ごみを収集する
22	地域子育て支援拠点	就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供や子育て相談、子育て情報の提供などを行う各区に1ヶ所ある地域の子育て支援の核となる施設
26	よこはまシニアボランティアポイント事業	65歳以上の市民の方が、介護施設等でボランティア活動を行うとポイントがたまり、寄付や換金ができる仕組み
28	障害児地域訓練会	障がい児の保護者等が自主的に組織し、地域において障がい児を対象に生活指導や機能回復訓練などを実施しています。障がいのある子どもが地域のボランティアとともに活動する場であるとともに、親の居場所としての役割があります
28	Yナース制度	横浜市災害支援ナースの通称。大震災発生時に、あらかじめ登録された医師、薬剤師、市職員と共に、横浜市防災計画に基づく「医療救護隊」として活動する看護職
28	職能団体	専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や、専門職としての待遇や利益を保持・改善、会員同士の交流などの役目を果たす機関



旭区のキャラクターあさひくん



旭区社協のキャラクターあさひ丸

平成 28 年 3 月発行

事務局・問い合わせ先

横浜市旭区役所福祉保健課

電話 045-954-6143 FAX 045-953-7713

所在地 〒 241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰 1 丁目 4-12

社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

電話 045-392-1123 FAX 045-392-0222

所在地 〒 241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰 1 丁目 6-35